

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	アナウンスメントの基礎						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アナウンスメントの基本とされるニュース原稿の読みについて理解と実践						
授業の概要	始めに、日本語の音声学の基礎的知識を習得することを目指す。日本語の音声の仕組みを学び、アナウンスメントの基礎を通して身につけたことが、日本語での口頭表現、プレゼンテーションの技法の向上につながるようになる。発声練習をはじめ、アナウンスの基本を学び、その後、アナウンスメントの基礎となるニュース原稿を読んで実践に取り組む。その様子をVTR収録し、視聴して好評する形で授業を行う。						
到達目標	ニュース原稿を読む技術を理解し、実践できること						
授業計画	第1回 講義説明と発声練習 第2回 発声練習 第3回 日本語における各音節の発音 第4回 ガ行鼻濁音 第5回 母音の無声化 第6回 短文練習 第7回 アクセント 第8回 アクセント練習 第9回 ニュース原稿の読み方①(時事・政治) 第10回 ニュース②(時事・経済) 第11回 ニュース③(季節) 第12回 ニュース④(行事) 第13回 ショートニュースの読み方 VTR収録のための諸注意 第14回 VTR収録 第15回 VTR視聴と講評  (受講者数によって内容が前後することがあります。)						
授業外における学習(準備学習の内容)	後半は実践が主になるので、発表の前には必ず練習をしておくこと。練習は必ず本番をイメージして行うこと。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	実技40%、ミニレポート(授業の中で提出)60%、欠席は減点。遅刻は3回で欠席1回と同等扱い。3分の2以上の出席と課題実技(VTR収録)がなければ、単位は認めない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法A						
担当教員	金岡 直子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文章表現力の養成						
授業の概要	日本語の文章表現についての知識と、その運用能力を高めるための方法を学びます。						
到達目標	<p>具体的な内容・目標は、以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語文の構造、文体について基本的な知識を身につける。</li> <li>2. 日本語表記、常用漢字、仮名づかい、外来語の表記、同音異義語、異字同訓などについての基本的な知識を身につける。</li> <li>3. 実用文、ビジネス文書、私信などを作成するさいの基本的なルールを知る。</li> <li>4. レポート・論文の書き方、原稿用紙の書き方などの基本的な知識を身につける。</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション  第2回 自分の文章力を知る  第3回 情報の整理  第4回 日本語表記・文法の確認  第5回 文章の流れを理解する  第6回 伝わりやすい文章表現  第7回 自己プレゼンテーション  第8回 標記の確認  第9回 アカデミックライティング  第10回 論文の構成・注意点  第11回 資料収集・分析・解釈  第12回 図書館学習  第13回 説明文  第14回 執筆  第15回 まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>予習：授業計画に沿って自分なりに情報を収集しておく。  復習：添削して返却したものをきちんと見直すこと。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小論文・レポート80%、自己プレゼンテーション10%、平常点10%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書	<p>森村稔『自己プレゼンの文章術』（ちくま新書644）  浜田麻里ほか『大学生と隆学区制のための論文ワークブック』（くろしお出版）</p>						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法B						
担当教員	金岡 直子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文章表現力の向上						
授業の概要	日本語の文種表現についての知識を高めるとともに、その運用能力向上を目的とします。						
到達目標	<p>具体的な内容・目標は、以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論理的で明確な正しい文章表現力を養う。</li> <li>2. 現実に目的を持った文章の内容を確実に読み取る力を養う。</li> <li>3. 事実を客観的に把握し表現する。</li> <li>4. 文章を構成する文や段落の、文章内部での役割を確実に把握する力を養う。</li> <li>5. 自分の知識や経験を活かして思考する力を養う。</li> <li>6. 自分の意見を効果的に記述する能力を養う。</li> <li>7. 手紙やビジネス文書などを、その目的に応じて的確に記述する力を養う。</li> </ol>						
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション  第2回 文の形式  第3回 論理構成  第4回 事実と意見  第5回 発想力  第6回 データ・根拠・例示  第7回 使用する語句  第8回 形式と注意点  第9回 文の把握  第10回 資料の編集・まとめ方  第11回 実践  第12回 実践  第13回 実践  第14回 実践  第15回 まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>予習：授業計画に沿って自分なりに情報を収集しておく。  復習：添削して返却したものをきちんと見直すこと。</p>						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小論文・レポート80%、自己プレゼンテーション10%、平常点10%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書	<p>森村稔『自己プレゼンの文章術』（ちくま新書644）  浜田麻里ほか『大学生と隆学区制のための論文ワークブック』（くろしお出版）</p>						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	音韻・表記の基礎知識／国語学講読C						
担当教員	吉井 健						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の音韻・表記についての問題を、歴史的な背景も視野に入れて考える。						
授業の概要	日本語の音韻・表記についての基礎的事項を、歴史的な背景も視野に入れて考える。現代語表記についても、音韻との関連だけではなく、歴史的な背景は必須である。日本語にはどのような音声があり、どのように生み出されているか、また、それぞれの音声がどのように区別され、たがいにはどのような関係にあるか考える。仮名遣いを中心に音声と表記との関係を考える。 具体的にはなぜハ行にのみ半濁音というものがあるのか、大阪と逢坂ではなぜ仮名表記が異なるのかといった具体的な問題を取り上げ、音韻・表記が負っている歴史性について語る能慮行くの育成を目指す。						
到達目標	音韻・表記の基礎的事項を理解し、現代日本語の表記の背景を知る。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 音声と音韻 1 音声と音韻の違い</li> <li>2) 音声と音韻 2 母音と子音 音節と拍(モーラ)</li> <li>3) 音声と音韻 3 清音と濁音 拗音</li> <li>4) 音声と音韻 4 アクセント・イントネーション</li> <li>5) 音韻の変遷 1 五十音図・いろはうた</li> <li>6) 音韻の変遷 2 アヤワ行音の変遷 ハ行音の変遷</li> <li>7) 音韻の変遷 3 母音連続 音便など</li> <li>8) 音声言語と書記言語</li> <li>9) 表記の変遷 1 日本での文字使用 漢字から仮名へ</li> <li>10) 表記の変遷 2 仮名遣いの発生</li> <li>11) 現代の表記 1 現代仮名遣 表記の原則</li> <li>12) 現代の表記 2 語種と表記 ローマ字</li> <li>13) 現代の表記 3 漢字制限</li> <li>14) 現代の表記 4 新しい表記 表記の戯れ</li> <li>15) まとめ</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	準備は特に必要ないが、授業が進むに従って、音韻・表記の問題を身近な例で確認することに努めてほしい。小テストを行い、復習の助けにしたい。						
授業方法	講義を基本とするが、少人数の場合は課題について発表してもらう。						
評価基準と評価方法	数回の小テスト70%、および平常点30% (少人数の場合、発表を含む)						
教科書	プリント配布						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	華道史						
担当教員	小林 善帆						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての華道						
授業の概要	<p>「いけばな」は現在にも生きる日本の芸術である。その起源は、仏に花を供える「供花」にあると言われる。平安時代には既に一輪挿しの例も確認されるが、「いけばな」の成立は室町後期のことで、京都六角の頂法寺の住持、池坊専応・専栄・専好の時代にその様式が確立する。安土桃山文化の中に花開いた「いけばな」の美は、江戸時代にさらに洗練され、池坊以外の多くの流派をも生み出し、家元制度も確立する。近代には折からの日本ブームに乗ってヨーロッパにも波及し、その文化は現在にも継承されることとなる。この「いけばな」の世界を、基本的な実技を交えながら学ぶ。</p>						
到達目標	華道の歴史と理論を基本的な実技を交え学ぶことから、日本文化の形成と本質を理解し、教養を深め、海外への日本文化紹介をおこなえるようにする。						
授業計画	<p>第一回 概説 日本の文化と華道  第二回 華道通史 用語解説  第三回 中世以前 和歌・連歌といけばな  第四回 中世1 「たて花」と連歌・申楽・聞香  第五回 中世2 華道理論、『仙伝抄』『専応口伝』  第六回 近世1 「抛入れ」「茶花」  第七回 近世2 「立花」  第八回 近世3 「文人生」、中国瓶花の影響  第九回 近世4 「生花」  第十回 近代1 「盛花」以後  第十一回 近代2 女学校と華道  第十二回 近代3 芸道として  第十三回 現代1 現代美術との相違  第十四回 現代2 世界の中の華道 フラワーアレンジメント（欧米）・コッコジ（韓国）  第十五回 まとめ 質疑応答</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義で興味を持ったことに関して、図書館で調べてみる。各自、華道展に行ってみたり、部屋に花をいけてみたりする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポート50%、平常点（小テストを含む）50%						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『「花」の成立と展開』小林善帆 和泉書院 2007年 ISBN978-4-7576-0441-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国三千年の歴史と、それを受容した先人の工夫を理解する。						
授業の概要	中国とその文学の歴史を把握するとともに、それを受容するための工夫、すなわち中国語を日本語の体系に組み入れた訓読法の諸相を学ぶ。中国文学の流れの大枠を捉えた上で、実際に文献を読む実践編に入り、中国文学の本質に迫ることができるようにする。						
到達目標	漢文を通じて中国文化を正當に評価できる力を身に付ける。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：中国三千年の歴史 第3回：神話の時代 第4回：諸子百家の時代 第5回：諸子百家の思想 第6回：諸子百家の文学 第7回：漢代の散文 第8回：漢代の韻文 第9回：唐代の散文 第10回：唐代の韻文 第11回：唐詩選の受容 第12回：蒙求の時代 第13回：四大奇書 第14回：まとめと筆記試験 第15回：総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の中国とその歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	漢文学び方の基礎（改訂版） 近藤春雄著 武蔵野書院刊 ISBN：9784838606153 価格：¥630						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文を読むB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国文化を正に評価できる力をつけることこそが日本文化の本当の理解につながる						
授業の概要	すでに身に付けた漢文訓読の基礎を確かなものとし、その土台に基づいて「蒙求」「史記」「論語」などの文献を、実際に読む。さまざまなジャンルの作品を数多く読むことで、理屈のみではなく、感覚として、先人が苦労して編み出してきた漢文訓読の偉大さを実感できるようにする。						
到達目標	「蒙求」などの講読を通して、中国文化の理解や日本文化への影響を理解する。						
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：漢文の作品についての概観 第3回：「蒙求」の講読 導入 第4回：「蒙求」の講読 展開 第5回：「蒙求」の講読 応用 第6回：「蒙求」の講読 まとめ 第7回：「史記」の講読 導入 第8回：「史記」の講読 展開 第9回：「史記」の講読 応用 第10回：「論語」の講読 導入 第11回：「論語」の講読 展開 第12回：「論語」の講読 応用 第13回：漢文の日本文学への影響 第14回：まとめと筆記試験 第15回：総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	現代の中国とその歴史について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	無頼派作家研究						
授業の概要	主として太宰治、特に『人間失格』について考える。 近代文学全般について理解を深める一助となるだろう。						
到達目標	影印（写真版）を対照し、執筆の現場を追体験することで、『人間失格』の魅力を発見する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 無頼派とは 第3回 太宰治のこと 第4回 『人間失格』 「はしがき」 第5回 『人間失格』 「第一の手記」 導入 第6回 『人間失格』 「第二の手記」 発展 第7回 『人間失格』 「第二の手記」 導入 第8回 『人間失格』 「第二の手記」 発展 第9回 『人間失格』 「第三の手記」 「一」 導入 第10回 『人間失格』 「第三の手記」 「一」 応用 第11回 『人間失格』 「第三の手記」 「一」 発展 第12回 『人間失格』 「第三の手記」 「二」 導入 第13回 『人間失格』 「第三の手記」 「二」 発展 第14回 『人間失格』 「あとがき」と筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	20世紀前半の小説類を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	直筆で読む「人間失格」（集英社新書） ISBNコード：978-4-08-720468-1						
参考書							



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学を学ぶB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	織田作之助研究						
授業の概要	今年、生誕100年を迎える織田作之助、特に『夫婦善哉』について考える。 近代文学全般について理解を深める一助となるだろう。						
到達目標	影印（写真版）を活用し、執筆の現場を追体験することで、『夫婦善哉』正統の魅力を発見する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 織田作之助のこと 第3回 大阪の文学 第4回 中之島図書館 第5回 夫婦善哉のこと 第6回 夫婦善哉 正編 導入 第7回 夫婦善哉 正編 発展 第8回 夫婦善哉 正編 展開 第9回 続編への道 第10回 大分の生活 第11回 続編 発展 第12回 続編 展開 第13回 夫婦善哉の結末 第14回 とりあえずのまとめと筆記試験 第15回 全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	20世紀前半の小説類を数多く読むこと						
授業方法	講義形式に適宜、講読の要素を加味する。						
評価基準と評価方法	筆記試験50% 日常的な授業に対する取組状況等の評価50%						
教科書	織田作之助『夫婦善哉 完全版』雄松堂書店 ISBN: 978-4-8419-0467-3						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むA						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	犯罪の観点から小説を読む						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、泉鏡花「外科室」と志賀直哉「范の犯罪」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家泉鏡花のこと 第3回 泉鏡花の作品について 第4回 泉鏡花「外科室」講読 導入 第5回 泉鏡花「外科室」講読 応用 第6回 泉鏡花「外科室」講読 発展 第7回 泉鏡花「外科室」講読 展開 第8回 泉鏡花「外科室」講読 まとめ 第9回 志賀直哉のこと 第10回 志賀直哉「范の犯罪」講読 導入 第11回 志賀直哉「范の犯罪」講読 応用 第12回 志賀直哉「范の犯罪」講読 発展 第13回 志賀直哉「范の犯罪」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示する						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	近代文学を読むB						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	探偵小説を読むこと						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、谷崎潤一郎「途上」と芥川龍之介「報恩記」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家谷崎潤一郎のこと 第3回 谷崎潤一郎の作品について 第4回 谷崎潤一郎「途上」講読 導入 第5回 谷崎潤一郎「途上」講読 応用 第6回 谷崎潤一郎「途上」講読 発展 第7回 谷崎潤一郎「途上」講読 展開 第8回 谷崎潤一郎「途上」講読 まとめ 第9回 芥川龍之介のこと 第10回 芥川龍之介「報恩記」講読 導入 第11回 芥川龍之介「報恩記」講読 応用 第12回 芥川龍之介「報恩記」講読 発展 第13回 芥川龍之介「報恩記」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶA／平安の文学A						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	枕草子を読む その1						
授業の概要	『清少納言枕草子』を、世間で普通に読まれている枕草子とは少し内容の異なる能因本のテキストで読みながら、平安貴族社会の文化について学ぶ。あわせて、枕草子という作品の文芸性についても講義する。						
到達目標	典型的な仮名文の文体に慣れるとともに、写本で伝わってきた作品がもつ独特の問題についての知識を習得することを目標とする。						
授業計画	1 枕草子について その1 2 同上 その2 3 枕草子の諸本 その1 4 同上 その2 5 枕草子の諸章段 6 類聚的章段の特徴 その1 7 同上 その2 8 同上 その3 9 同上 その4 10 随想的章段の特徴 その1 11 同上 その2 12 同上 その3 13 同上 その4 14 まとめ 15 試験と反省						
授業外における学習（準備学習の内容）	とくに必要はない。						
授業方法	購読と講義をまじえて行う。						
評価基準と評価方法	期末試験による。						
教科書	松尾聡 笠間文庫『枕草子』（笠間書院刊）ISBN978-4-305-70422-1						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶB／平安の文学B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	枕草子を読む その2						
授業の概要	『清少納言枕草子』を、世間で普通に読まれている枕草子とは少し内容の異なる能因本のテキストで読みながら、平安貴族社会の文化について学ぶ。あわせて、日記的章段とよばれる章段の購読を通じて、枕草子という作品の成立や特性についても講義する。						
到達目標	典型的な仮名文の文体に慣れるとともに、写本で伝わってきた作品がもつ独特の問題についての知識を習得することを目標とする。						
授業計画	1 枕草子について 2 枕草子の諸本 3 枕草子の諸章段 4 類聚的章段を読む その1 5 同上 その2 6 随想的章段を読む その1 7 同上 その2 8 日記的章段を読む その1 9 同上 その2 10 同上 その3 11 同上 その4 12 同上 その5 13 日記的章段の特徴 14 まとめ 15 試験と反省						
授業外における学習（準備学習の内容）	とくに必要はない。						
授業方法	購読と講義をまじえて行う。						
評価基準と評価方法	期末試験による。						
教科書	松尾聡 笠間文庫『枕草子』（笠間書院刊）ISBN978-4-305-70422-1						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶC／近世の文学A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	近世演劇研究 時代物の浄瑠璃						
授業の概要	江戸時代を代表する歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を考える。特に二つの芸能の交流に着目し、三百年以上の間、社会の最先端の文化の一つとして活動を継続してきた軌跡を考察する。浄瑠璃や歌舞伎という芸能が17世紀初め頃に誕生してから、さまざまな紆余曲折を経ながら江戸時代という時代の中で大衆の中に定着してゆく。本講義は、その過程について特に成立期から元禄・享保期までを中心に、主に人形浄瑠璃の盛衰を柱に検討を加える連続講義の一環である。本年度は、昨年度の宝永期の考察に引き続き、激動する正徳期に起こる新たな演劇界の動きについて考察する。前期は時代物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。						
到達目標	日本文化の代表の一つである浄瑠璃の基礎と概要を学ぶことができる。						
授業計画	第1回 近世演劇史概説 歌舞伎編 第2回 近世演劇史概説 浄瑠璃編 第3回 正徳期の演劇界 実と虚の世界 第4回 赤穂事件の概略 第5回 赤穂事件の文芸化・演劇化 第6回 『基盤太平記』の概要1 第7回 『基盤太平記』の概要2 第8回 『基盤太平記』の概要3 第9回 『基盤太平記』の概要4 第10回 『基盤太平記』の概要5 第11回 『基盤太平記』の概要6 第12回 赤穂事件と『基盤太平記』 第13回 太平記の世界と『基盤太平記』 第14回 『仮名手本忠臣蔵』成立前史 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	古典文学を学ぶD／近世の文学B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	近世演劇研究 世話物の浄瑠璃						
授業の概要	江戸時代を代表する歌舞伎と人形浄瑠璃の歴史を考える。特に二つの芸能の交流に着目し、三百年以上の間、社会の最先端の文化の一つとして活動を継続してきた軌跡を考察する。浄瑠璃や歌舞伎という芸能が17世紀初め頃に誕生してから、さまざまな紆余曲折を経ながら江戸時代という時代の中で大衆の中に定着してゆく。本講義は、その過程について特に成立期から元禄・享保期までを中心に、主に人形浄瑠璃の盛衰を柱に検討を加える連続講義の一環である。本年度は、昨年度の宝永期の考察に引き続き、激動の正徳期に起こる新たな演劇界の動きについて考察する。後期は時代物に続き、世話物を中心に、芸能が新たな展開を見せる時代の変化を作品を通して考察する。						
到達目標	日本文化の代表の一つである浄瑠璃の基礎と概要を学ぶことができる。						
授業計画	第1回 正徳期の浄瑠璃界 第2回 時代物と世話物 第3回 歌舞伎の世話物と浄瑠璃の世話物 第4回 世話物の歴史 第5回 世話物の展開 『生玉心中』 1 第6回 世話物の展開 『生玉心中』 2 第7回 世話物の展開 『生玉心中』 3 第8回 世話物の展開 『生玉心中』 4 第9回 世話物の展開 『生玉心中』 5 第10回 世話物の展開 『生玉心中』 6 第11回 世話物の展開 『生玉心中』 7 第12回 世話物の展開 『生玉心中』 8 第13回 人形浄瑠璃の表現 1 第14回 人形浄瑠璃の表現 2 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	古典文学を読むA						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『竹取物語』の講読						
授業の概要	<p>平安時代前期に成立した、現存最古の物語『竹取物語』を講読する。  『竹取物語』は「かぐや姫」の物語として名高いが、羽衣伝説や竹取の翁伝説を中心に、求婚難題説話や地名起源伝説などを付加して構成され、その他、漢籍、仏典との関係も注目される伝奇物語である。  また、五人の貴公子の失敗談には、貴族社会に対する風刺が込められており、興味深い。  本授業では、このような事柄に注目しながら、『竹取物語』の特質を探究する。  なお、一方的な講義ばかりではなく、一人一人が調べて来て、発表する演習形式も取り入れる。  さらに、古典語彙、文語文法などを身に付け、古文読解の能力を高めるよう読み進める。</p>						
到達目標	<p>平安時代の物語文学一般、また『竹取物語』そのものの特質を探究する。  さらに、古典語彙、文語文法などに着目して、古文読解の能力を高めさせることも目標とする。</p>						
授業計画	第1回 平安時代の物語文学についての概説 第2回 『竹取物語』についての概説 第3回 『竹取物語』の諸本（本文系統）についての講義 第4回 『竹取物語』の冒頭文についての講義 第5回 五人の貴公子の求婚談についての講読 第6回 「仏の御石の鉢」についての講読 第7回 「蓬萊の玉の枝」前半についての講読 第8回 「蓬萊の玉の枝」後半についての講読 第9回 「火鼠の皮衣」についての講読 第10回 「龍の頸の珠」についての講読 第11回 「燕の子安貝」についての講読 第12回 「かぐや姫の昇天」についての講読 第13回 「不死の薬」と「富士の山」についての講読 第14回 まとめと試験 第15回 『竹取物語』についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	古文読解の基礎力が不足している場合は、古典語彙、文語文法などの知識を自宅学習で補う必要がある。						
授業方法	講義と講読（受講者による担当発表）						
評価基準と評価方法	試験（70%）、担当発表の内容（20%）、平常点（10%）によって評価する。						
教科書	竹取物語〔訂正増補版〕 松尾聰 校注解説 笠間書院 4-305-00050-4						
参考書	新編日本古典文学全集『竹取物語』片桐洋一（小学館） 新日本古典文学大系『竹取物語』堀内秀晃（岩波書店） 『竹取物語全評釈』（本文評釈篇）上坂信男（右文書院）						



科目区分	日本語日本文学専攻専門教育科目						
科目名	古典文学を読むB						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	『大和物語』の講読						
授業の概要	<p>平安時代の歌物語である『大和物語』を講読する。  『大和物語』百七十三章段のうち、百四十章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。  本授業では、それらの特質を考察するとともに、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探究する。  なお、一方的な講義ばかりではなく、一人一人が調べて来て、発表する演習形式も取り入れる。  さらに、古典語彙、文語文法などを身に付け、古文読解の能力を高めるよう読み進める。</p>						
到達目標	<p>平安時代における歌物語について、また『大和物語』そのものの特質を探究する。  さらに、古典語彙、文語文法などに着目して、古文読解の能力を高めさせることも目標とする。</p>						
授業計画	第1回 平安時代の物語文学の概観についての講義 第2回 『大和物語』についての講義 第3回 第一段の講義 第4回 第二・三段の講読 第5回 第四・八段の講読 第6回 第二十五・二十七段の講読 第7回 第二十九・三十段の講読 第8回 第四十一・四十二段の講読 第9回 第四十五・五十八段の講読 第10回 第七十・七十六・七十七段の講読 第11回 第九十一・九十九段の講読 第12回 第四百七段前半の講読 第13回 第四百七段後半の講読 第13回 第四百九段の講読 第14回 まとめと試験 第15回 『大和物語』についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	古文読解の基礎力が不足している場合は、古典語彙、文語文法などの知識を自宅学習で補う必要がある。						
授業方法	講義と講読（受講者による担当発表）						
評価基準と評価方法	試験（70%）、担当発表の内容（20%）、平常点（10%）によって評価する。						
教科書	校注大和物語 柳田忠則編(新典社) 978-4-7879-0805-6						
参考書	『大和物語全釈』森本茂（大学堂書店） 新編日本古典文学全集『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』高橋正治（小学館） 『大和物語評釈』今井源衛（笠間書院） 講談社学術文庫『大和物語（上）・（下）』雨海博洋（講談社）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むC						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	御伽草子を読む						
授業の概要	室町時代から江戸時代初期にかけて作られ、広い階層に読み継がれてきた御伽草子の中から、数編を選んで購読する。						
到達目標	御伽草子の文体に慣れるとともに、その文学的特性について考えてみる。						
授業計画	第1回 御伽草子とはどういうものか。その1 第2回 同上。その2 第3回 『一寸法師』を読む。その1 第4回 同上。その2 第5回 同上。その3 第6回 同上。その4 第7回 『和泉式部』を読む。その1 第8回 同上。その2 第9回 同上。その3 第10回 同上。その4 第11回 同上。その5 第12回 同上。その6 第13回 同上。その7 第14回 まとめ 第15回 試験と反省						
授業外における学習（準備学習の内容）	購読予定箇所を事前に音読してくること。						
授業方法	購読						
評価基準と評価方法	出席および平常点70%、レポート30%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学を読むD						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	浮世草子を読む						
授業の概要	江戸時代に作られた、井原西鶴の「お金」にまつわる浮世草子を読む。 1「大晦日は合はぬ算用」…『西鶴諸国ばなし』にある、一枚足りなくなった小判の物語。 2「小判は寝姿の夢」…『世間胸算用』にある夫婦の話。金持ちを夢見ながら、貧しい現実の生活の中で妻を奉公に出す男の悲哀の物語。 3「人には棒振虫同然に思はれ」…『西鶴置土産』にある落ちぶれた男の話。裕福であった時の友人に出会った男の意地の物語。						
到達目標	現代の小説につながる日本近代小説の「源（みなもと）」を知るとともに、江戸時代の日本語の文体や文化を学ぶ。						
授業計画	第1回 浮世草子について 第2回 「大晦日は合はぬ算用」 1 第3回 「大晦日は合はぬ算用」 2 第4回 「大晦日は合はぬ算用」 3 第5回 「大晦日は合はぬ算用」 4 第6回 「小判は寝姿の夢」 1 第7回 「小判は寝姿の夢」 2 第8回 「小判は寝姿の夢」 3 第9回 「小判は寝姿の夢」 4 第10回 江戸時代の経済 第11回 「人には棒振虫同然に思はれ」 1 第12回 「人には棒振虫同然に思はれ」 2 第13回 「人には棒振虫同然に思はれ」 3 第14回 「人には棒振虫同然に思はれ」 4 第15回 江戸時代の小説						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習形式で行うため1回以上の発表が必須。担当範囲は受講生が決定後すぐに行うが、発表のための準備を行う必要がある。具体的には語釈や現代語訳など。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表50% 小テスト20% 期末テスト30%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	ことばの調べ方／国語学講読B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばに関するデータを集め、客観的に分析する方法を学ぶ。						
授業の概要	文法・語彙・音声や言語の運用と言った言語の仕組みを理解するには、十分なデータとそれに対する適切な分析が必要である。現代日本語について考える場合にも、内省だけではなく使用実態などについてのデータを集めることが必須である。また、言語運用の多様性を把握するためにも内省ではなく客観的なデータが必要となる。この授業では、具体的な問題をいくつか設定し、ことばについて調べる手段を解説する。						
到達目標	ことばに関するデータを、研究に活かすために、適切に集める方法を身につける。						
授業計画	第1回 何のために調べるのか？ 第2回 調べるツール 文献活用篇 日本国語大辞典 第3回 逆引き辞典・類語辞典・シソーラス 第4回 古語辞典 索引・インデックス 第5回 時代別古語辞典 各時代の辞書類 第6回 その他、事典類など 第7回 文献活用篇復習 まとめ 第8回 調べるツール パソコン活用篇 日本語書き言葉均衡コース① 第9回 日本語書き言葉均衡コース② 第10回 その他のコースなど 第11回 パソコン活用篇復習 まとめ 第12回 アンケート調査 第13回 対面調査 第14回 その他の調べ方 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業ではサンプルを取り上げて解説するが、それを自分でやってみることが必要である。そのための調査課題を適宜与える。						
授業方法	講義および発表						
評価基準と評価方法	調査課題についてのレポート70%（少人数の場合発表も含む）、平常点30%						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	茶道史						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	茶道と、その歴史						
授業の概要	茶をめぐる日本の文化は、日本文化史において独自の発展を遂げ、今日、日本の伝統文化を代表するもののひとつとなっている。中国唐代の喫茶文化の模倣から急速に貴族たちの間に広まった平安時代の茶。禅の実践の中で精神性を深めてゆくいっぽう、権力構造の中に取り込まれるようになっていった中世の茶。利休により至高の精神性を獲得するに至った近世の茶。茶をめぐる文化は、それぞれの時代精神や周辺のさまざまな文化事象と密接に関わりながら展開してきた。本講義では、代表的な茶道関連文献を紹介しつつ、日本における茶の文化を歴史的に概観する。						
到達目標	茶道についての基礎知識を修得し、茶道に親しめるようになってほしい。						
授業計画	(1) 現代生活と茶 (2) 茶葉について (3) 亭主と客・もてなしの心 (4) 茶道具概説(1) (5) 茶道具概説(2) (6) 茶事概説(1) 正午の茶事 (7) 茶事概説(2) その他の茶事 (8) 種々の茶会 (9) 茶の歴史(1) 利休 (10) 茶の歴史(2) 利休以前 (11) 茶の歴史(3) 利休以前 (12) 茶の歴史(4) 利休以前 (13) 茶の歴史(5) 利休以後 (14) まとめ (15) 試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	美術館、茶道具店等で、できるだけ多くの茶道具を見ること。 機会があれば、積極的に茶会に参加すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	期末試験						
教科書	『茶道文化検定 公式テキスト1級2級用一茶の湯を学ぶ本一 (淡交社刊・2100円)』						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域方言調査の企画・立案・実施						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。前期は、方言調査の実施にあたって、ことばの調査に関する企画・立案のしかたを学ぶ。夏休み中（9月上・中旬）に、方言調査を実施する。調査研究を通して、人間同士の円滑なコミュニケーションとは何か、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは何かについてもいっしょに考えてみたい。						
到達目標	方言調査の全体像を把握し、実践できるようになる。						
授業計画	第1回 方言を調査すること 第2回 先行調査・研究の検討① 第3回 先行調査・研究の検討② 第4回 先行調査・研究の検討③ 第5回 先行調査・研究の検討④ 第6回 先行調査・研究の検討⑤ 第7回 先行調査・研究の検討⑥ 第8回 先行調査・研究の検討⑦ 第9回 先行調査・研究の検討⑧ 第10回 夏休み調査の準備・調査票の作成① 第11回 夏休み調査の準備・調査票の作成② 第12回 夏休み調査の準備・調査票の作成③ 第13回 夏休み調査の準備・調査票の作成④ 第14回 模擬調査 第15回 夏休み調査に向けて  ※ 9月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。						
授業外における学習（準備学習の内容）	特に調査票の作成など、授業外での準備が大切となるため、念入りに作成すること。						
授業方法	講義、及び演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート、試験40%						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言調査結果の集計と分析						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。後期は、夏休みに実施する方言調査結果の集計と分析の方法について、体系的に学ぶ。						
到達目標	調査した結果から、データを整理し、分析・発表までの一連の研究手法を身につける。						
授業計画	※ 9月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。 第1回 調査票の回収 第2回 調査結果の集計① 第3回 調査結果の集計② 第4回 調査結果の集計③ 第5回 調査結果の集計④ 第6回 調査結果の集計⑤ 第7回 調査結果の集計⑥ 第8回 調査結果の分析① 第9回 調査結果の分析② 第10回 調査結果の分析③ 第11回 調査結果の分析④ 第12回 調査結果の分析⑤ 第13回 調査結果の発表① 第14回 調査結果の発表② 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	結果発表に際しては準備が必要となる。念入りに準備すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%とレポート、試験40%						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道講義						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	書論と鑑賞						
授業の概要	まず「書論」を中心に解説・考察する。書論とは何か、どのような書論があるのか、その代表の一つである「書譜」の講読に重点をおいて学習する。 次に「書の鑑賞」について解説、考察する。実際に鑑賞体験を通じて鑑賞力を高め感性・知性を磨きたい。						
到達目標	書論について理解（孫過庭『書譜』の論旨について学習、理解を深める）。 鑑賞の段階や方法を理解したうえで鑑賞力の向上を目指す（自らの眼で観、頭で考え、心で感じとる）。						
授業計画	第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布と関連参考文献の紹介、授業の進め方の説明。書論について略説。 第2回：「書譜」講読。（第一篇 四賢の優劣論） 第3回：「書譜」講読。（第二篇 書の本質と価値、芸術論） 第4回：「書譜」講読。（第二篇 書の本質と価値、書体論・使転形質、五合五乖） 第5回：「書譜」講読。（第三篇 六朝以来の書論） 第6回：「書譜」講読。（第四篇 執使用転の説、王羲之の書の価値） 第7回：「書譜」講読。（第五篇 書表現の基盤と段階、意前筆後、三時三変） 第8回：「書譜」講読。（第五篇 書表現の基盤と段階、淹留勁疾・運筆論、様態九例） 第9回：「書譜」講読。（第六篇 書の妙境と批判、跋語） 第10回：「書の鑑賞」について解説。 第11回：鑑賞演習（楷書）。 第12回：鑑賞演習（行草書）、直観的鑑賞、分析的鑑賞。 第13回：鑑賞演習（行草書）、総合的鑑賞。 第14回：鑑賞演習（漢字仮名交じり書）、直観的鑑賞、分析的鑑賞。 第15回：鑑賞演習（漢字仮名交じり書）、総合的鑑賞。						
授業外における学習（準備学習の内容）	書論（「書譜」講読）については予習必須。単にテキストを読むだけでなく、工具書・参考書などにより語意・文意の理解を深めるよう努力すること。						
授業方法	講義、演習。						
評価基準と評価方法	レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	書名/中国法書ガイド 38『書譜』 著訳編註名/二玄社編 出版社/二玄社 ISBN/4544021383 必要に応じプリントを配布する。						
参考書	「書譜」書論双書（田邊萬平著）日本習字普及協会 通解・孫過庭「書譜」（藤原楚水著）清雅堂 中国書論大系・第2巻「唐 I」（P93～P177、書譜）二玄社						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名A）						
担当教員	釣 年子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技く仮名A)						
授業の概要	仮名は日本で生まれ育ち、平安王朝の美を代表するものの一つです。現代でもひらがながきれいに書けるだけで文字は随分印象が良くなります。単体から連綿まで、その雅な仮名の書き方の基礎を学びます。						
到達目標	仮名の発生の歴史を理解し、仮名学習に必要な執筆法の習得と仮名および変体仮名の運筆法の習得						
授業計画	1) ガイダンスー仮名とは - 仮名の歴史 2) 姿勢・執筆法・基本練習 「いろは」単体の練習 1ー「いろはにほへとちりぬるを」 3) 2ー「わかよたれそつねならむう」 4) 3ー「為のおくやまけふこえてあ」 5) 4ー「さきゆめみしえひもせず」 6) 5ー「いろは」全文 「とりなく・・・」仮名字源 7) 比較書写ー実用の仮名とは 8) 変体仮名練習ー1 9) 変体仮名練習ー2 10) 仮名連綿練習ー1 11) 仮名連綿練習ー2 12) 仮名連綿練習ー3ー実用日常語の練習 13) 仮名連綿練習ー4ー実用日常語 年賀状 お礼状など 14) 俳句作品練習ー芭蕉等 15) 和歌作品練習ー百人一首等						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	実技						
評価基準と評価方法	出席、提出作品、授業への取り組みの姿勢を評価する。						
教科書	手本 プリントを配布します。授業中に紹介します。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（仮名B）						
担当教員	釣 年子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技（仮名B）						
授業の概要	仮名一応用編 書道実技（仮名A）基礎の応用として、さまざまな書式を試みます。俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などに挑戦します。美しい仮名の加工紙（料紙）も作ってみたい。						
到達目標	俳句、和歌などの散らし書きを学ぶ 色紙、短冊、扇面など様々な書式を知る						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 散らし書き演習（1）「いろは」単体・連綿の復習</li> <li>2) 散らし書き演習（2）「和歌を書く」一部分練習</li> <li>3) 色紙に書く（1）散らし書き演習「和歌を書く」－連綿と構成の意味を考え、その方法を学ぶ</li> <li>4) 色紙に書く（2）散らし書き清書「和歌を書く」－墨量、濃淡を生かす</li> <li>5) 短冊に書く（1）俳句または和歌を作ろう</li> <li>6) 短冊に書く（2）短冊に書く形式を学ぶ</li> <li>7) 短冊に書く（3）俳句または和歌の清書</li> <li>8) 大字の仮名を書こう（1）半切二分の一演習（イ）</li> <li>9) 大字の仮名を書こう（2）半切二分の一演習（ロ）</li> <li>10) 大字の仮名を書こう（3）半切二分の一清書</li> <li>11) 料紙の年賀状を作ろう</li> <li>12) 料紙の年賀状を書こう</li> <li>13) 扇面－1－扇面の様々な種類を知ろう</li> <li>14) 扇面－2－扇面に書く形式を学ぶ</li> <li>15) 扇面－3－扇面の清書</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	なし						
授業方法	実技演習						
評価基準と評価方法	出席、提出作品、授業への取り組みの姿勢を評価する						
教科書	手本 プリントを配布します。授業中に紹介します						
参考書							

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	書道実技（行書）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	行書の基本用筆を理解・習得した上で、行書の古典作品を臨書する。						
授業の概要	行書の基礎を習得することを目的として、行書の用筆法を習得する。まず、点画の曲線化、点画の連続、点画の変化、点画の省略について学び、次に点画の方向の変化、点画の長短の変化について学ぶ。さらに筆順の変化、外形の変化について学んだ後、古典作品の鑑賞の仕方や臨書について学習した後、王羲之『蘭亭序』について学び、半紙や半切に臨書する練習を行う。						
到達目標	行書の基本的な知識と技法を習得する。また、古典作品の鑑賞の仕方や臨書が出来るようになる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～点画の曲線化、点画の連続、点画の変化、点画の省略について～</li> <li>2、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～点画の方向の変化、点画の長短の変化について～</li> <li>3、硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） ～筆順の変化、外形の変化について～</li> <li>4、毛筆による行書の基礎を習得する～点画の曲線化、連続、変化、省略について～</li> <li>5、毛筆による行書の基礎を習得する～点画の方向の変化、長短の変化について～</li> <li>6、毛筆による行書の基礎を習得する～筆順の変化、外形の変化について～</li> <li>7、王羲之『蘭亭序』について・古典作品の鑑賞の仕方について・臨書について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書</li> <li>8、半紙作品のまとめ方について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書</li> <li>9、半切作品のまとめ方について／王羲之『蘭亭序』より4文字臨書</li> <li>10、王羲之のその他の作品について／王羲之『蘭亭序』より半切に14文字臨書</li> <li>11、王羲之以外の書家（中国）について、課題について／王羲之『蘭亭序』より半切に14文字臨書</li> <li>12、王羲之以外の書家（日本）について／課題制作に向けての練習</li> <li>13、課題作品制作①（半切2分の1）</li> <li>14、課題作品制作②（半紙）</li> <li>15、課題作品制作③（半切）、作品・レポート提出</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前：授業計画に従って、次回授業ですることを目を通しておく。</p> <p>授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。</p>						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、課題30%、作品・レポート50%						
教科書	蘭亭叙〈五種〉[東晋・王羲之／行書]二玄社						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「書は人なり」という言葉があるように、字には書き手の人柄や性格などが表れる。言い換えれば、書いた字によって自分の印象が決まるのである。一見、きれいだけれど頼りない字。または、大きっぱだけれど温かみの感じられる字など、様々である。そこでこの授業では、いま一度自分の字を改めて見ることにより、自分の字の特徴を知り、より良い字が書けるようになるのがテーマである。						
授業の概要	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を見につける。また、書くだけでなく草書体や旧字体・書写体が読めるようになる。基本事項として、常用漢字の筆順や部首名の確認もする。なお、授業は楷書体（基本点画）の書き方、縦書き文書の書き方、横書き文書の書き方などについて学習した後、行書体の基本点画の書き方、縦書き文書の書き方、横書き文書の書き方を学習する。また、実用として、はがきの書き方、手紙の書き方、掲示文の書き方を学び、応用として硬筆作品の創作を行う。						
到達目標	文字を正しくていねいに、用途に応じて書くことが出来るように、そのポイントを理解し、習得する。また、書くだけでなく、草書体や旧字体、書写体が読めるようになる。加えて、常用漢字の正しい筆順と部首名も習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達）、鉛筆の持ち方と書くときの姿勢などの確認。自分の名前を各書体で書く。</li> <li>2、ひらがなの成立と書き方について。ひらがなの字源を知る/楷書体に合うひらがなと行書体に合うひらがなの練習。</li> <li>3、楷書体について：字形の整え方について/楷書体の基本用筆の練習（基礎編）</li> <li>4、楷書体について：縦書きの文章の書き方について/楷書体の基本用筆の練習（応用編）</li> <li>5、楷書体について：横書きの文章の書き方について/楷書体についてのまとめ</li> <li>6、行書体について：行書体の基本用筆の練習（基礎編）</li> <li>7、漢字の部分の名称について、常用漢字の筆順について/行書体の基本用筆の練習（応用編）</li> <li>8、草書体について：草書体を読み書きする/行書体についてのまとめ</li> <li>9、実用書の書き方について：はがきの表裏の書き方について</li> <li>10、実用書の書き方について：手紙文の書き方について（文章、用語、書き出し、結びの言葉など）</li> <li>11、実用書の書き方について：封筒の表裏の書き方について、掲示文の書き方について</li> <li>12、筆ペンによる実用書の練習</li> <li>13、筆ペンによる作品制作（練習）</li> <li>14、筆ペンによる作品制作（清書）</li> <li>15、まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前：授業計画に従って、次回授業の予習。</p> <p>授業後：授業内に出来なかった箇所の自主練習。</p> <p>授業前・後に関わらず、字がきれいになるにはとにかく書くことが必須です。自ら課題を見付けて積極的に書いてください。</p>						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、課題30%、試験50%						
教科書							
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（硬筆）						
担当教員	室之園 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「書は人なり」という言葉があるように、字には書き手の人柄や性格などが表れる。言い換えれば、書いた字によって自分の印象が決まるのである。一見、きれいだけれど頼りない字。または、大きっぱだけれど温かみの感じられる字など、様々である。そこでこの授業では、いま一度自分の字を改めて見ることにより、自分の字の特徴を知り、より良い字が書けるようになるのがテーマである。						
授業の概要	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書けるように、そのポイントを習得し、集中力を見につける。また、書くだけでなく草書体や旧字体・書写体が読めるようになる。基本事項として、常用漢字の筆順や部首名の確認もする。なお、授業は楷書体（基本点画）の書き方、縦書き文書の書き方、横書き文書の書き方などについて学習した後、行書体の基本点画の書き方、縦書き文書の書き方、横書き文書の書き方を学習する。また、実用として、はがきの書き方、手紙の書き方、掲示文の書き方を学び、応用として硬筆作品の創作を行う。						
到達目標	文字を正しくていねいに、用途に応じて書くことが出来るように、そのポイントを理解し、習得する。また、書くだけでなく、草書体や旧字体、書写体が読めるようになる。加えて、常用漢字の正しい筆順と部首名も習得する。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達）、鉛筆の持ち方と書くときの姿勢などの確認。自分の名前を各書体で書く。</li> <li>2、ひらがなの成立と書き方について。ひらがなの字源を知る/楷書体に合うひらがたと行書体に合うひらがなの練習。</li> <li>3、楷書体について：字形の整え方について/楷書体の基本用筆の練習（基礎編）</li> <li>4、楷書体について：縦書きの文章の書き方について/楷書体の基本用筆の練習（応用編）</li> <li>5、楷書体について：横書きの文章の書き方について/楷書体についてのまとめ</li> <li>6、行書体について：行書体の基本用筆の練習（基礎編）</li> <li>7、漢字の部分の名称について、常用漢字の筆順について/行書体の基本用筆の練習（応用編）</li> <li>8、草書体について：草書体を読み書きする/行書体についてのまとめ</li> <li>9、実用書の書き方について：はがきの表裏の書き方について</li> <li>10、実用書の書き方について：手紙文の書き方について（文章、用語、書き出し、結びの言葉など）</li> <li>11、実用書の書き方について：封筒の表裏の書き方について、掲示文の書き方について</li> <li>12、筆ペンによる実用書の練習</li> <li>13、筆ペンによる作品制作（練習）</li> <li>14、筆ペンによる作品制作（清書）</li> <li>15、まとめとテスト</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、次回授業の予習。 授業後：授業内に出来なかった箇所の自主練習。 授業前・後に関わらず、字がきれいになるにはとにかく書くことが必須です。自ら課題を見付けて積極的に書いてください。						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、課題30%、試験50%						
教科書							
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道実技（作品制作）						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	自由制作。これまでの学習、経験を踏まえて、書作品を制作する。						
授業の概要	自由制作。個人個人に対して必要な助言、指導を実施、完成へ導く。手本なしで制作することは経験者にとっても容易ではない。学生にとってはハードルの高い作業である。これを踏まえて、制作についての考え方、発想のヒント、資料の集め方、作業手順などプリントの配布も含めきめ細かく指導する。まず、草稿の作成を目指す。この段階で必要に応じて文字資料や作品資料の提示など行う。次に書き込みの段階になるが、この過程で作品としての完成度を上げるための方法や工夫について助言指導を行う。						
到達目標	自らの着想にもとづき、字句、書体、書風、形式を考慮計画し実行する。手本によらず自力で制作するプロセスを経験学習する。						
授業計画	<p>第1回：自由制作とその計画書作製について説明。様々な書の古典、その制作への応用について解説。 自由制作草稿作成準備指導。</p> <p>第2回：自由制作準備。各自、参考古典、書跡の選択準備。</p> <p>第3回：参考古典、書跡の選択決定。その臨書演習に入る。（半紙）</p> <p>第4回：同前臨書演習（造形の特徴をよく観察する）。</p> <p>第5回：同前臨書演習（線質の特徴をよく観察する）。</p> <p>第6回：自由制作草稿確認、指導助言。</p> <p>第7回：自由制作着手（草稿に拠ってまず書いてみる）。</p> <p>第8回：自由制作演習（字形と運筆の検討）。</p> <p>第9回：自由制作演習（全体構成を検討、修正）。</p> <p>第10回：中間下見、指導助言。</p> <p>第11回：自由制作演習（書風、線質について検討）</p> <p>第12回：自由制作演習（統一と変化、気脈の貫通）。</p> <p>第13回：自由制作演習（従前の総合、総まとめ）。</p> <p>第14回：下見、講評。清書に向け指導助言。</p> <p>第15回：自由制作演習、清書完成（予定）。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に取り組むことを希望する。						
授業方法	演習、指導解説。						
評価基準と評価方法	作品の提出60%。平常点40%。						
教科書	なし。						
参考書	各自の選択による。						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	書道実技（草書）						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書法基礎（草書）。						
授業の概要	草書の基礎的書法の習得と理解を目指し、「書譜」の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。草書の字形は簡略ではあるが判読が難しい。この理由と事情について、その発生と成立の過程を解説する。これを踏まえた上で字形認識力の向上を目指す。一方、書法習得については草書書法に多用される代表的な筆遣いのトレーニングから入る。次に、速書について理解をはかり実践する。草書体は漢字仮名交じりの日本語表記の上でその速記性と美的調和において優れており日常筆記や手紙を書く場合大変有益な書体である。臨書演習を通して、書法習得とともに、速書と字形認識が表裏一体のものであることを理解し習熟へ導く。更に、半紙臨書を踏まえて半切臨書に取り組む。						
到達目標	草書書法基礎（旋回、ジグザグ、振り、当り運動。単体、連綿草）。草書体字形認識力の向上。書譜の条幅臨書作品。						
授業計画	<p>第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、関連参考文献の紹介、演習に必要な用具材についての確認と予告。書法基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆）について解説。</p> <p>第2回：草書とは何か？ その発生と成立の過程について解説。臨書について解説。</p> <p>第3回：書譜について解説。運筆トレーニング後、「書譜」の臨書演習（半紙）に入る。</p> <p>第4回：「書譜」臨書演習（一回目、テキストP2～）。</p> <p>第5回：「書譜」臨書演習（二回目、テキストP10～）。</p> <p>第6回：VTRによりこれまでの総括と今後への展望。草書の字形を覚える必要性について再確認。「書譜」臨書演習（三回目、テキストP20～）。</p> <p>第7回：草書字形一覧表配布（合理的に字形を覚える方法）解説。</p> <p>第8回：「書譜」臨書演習（四回目、テキストP30～）。</p> <p>第9回：「書譜」臨書演習（五回目、テキストP40～）。</p> <p>第10回：「書譜」臨書演習（六回目、テキストP50～）。</p> <p>第11回：「書譜」臨書演習（七回目、清書提出）。同条幅臨書について予告。</p> <p>第12回：「書譜」条幅臨書演習（一回目、まず書いてみる）。</p> <p>第13回：「書譜」条幅臨書演習（二回目、一字々々の特徴を詳細に検討する）。</p> <p>第14回：「書譜」条幅臨書演習（三回目、文字の大小、字間行間にも注意する）。</p> <p>第15回：「書譜」条幅臨書演習（四回目、全体の気脈を通す。清書提出）。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に学書に取り組むことを希望する。						
授業方法	臨書演習中心。講義、解説も織りまぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	書名/書譜(中国法書選No.38)著訳編註名/孫過庭出版社/二玄社 ISBN/4544005388 必要に応じプリントを配布する。						
参考書	書名/書道の古典(全三冊)著訳編註名/大東文化大学書道研究所出版社/二玄社 ISBN/4544014336						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	釣 年子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	楷書は現代の正書体であるが、書体としては最後にできたもので、それ以後新しい書体はできていない。日常生活においても、義務教育での書写においても楷書の重要性は論をまたないものである。本講では「楷法の極色則」と称される九成宮醜泉銘を中心に、書法修得と共にその書美を研究し理解を深める。						
到達目標	書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風・表現について理解と習得。 楷書書法の基本技法の習得。筆遣いの要点、字形の取り方、章法（文字の大きさ、配字、配列など）について理解習得。 楷書の書美の理解と表現。						
授業計画	第1回：演習に必要な用具用材についての確認と書写、書道のための参考文献の紹介。書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について略説。 第2回：書写の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、刀法、字形のまとめ方）について解説。 第3回：書写演習（簡単な字例から） 第4回：書写演習（前回の続き清書） 第5回：楷書の歴史と楷書古典名跡（「孔子廟堂碑」「九成宮醜泉銘」など）について解説 第6回：臨書演習（主として唐楷 半紙2字書） 第7回：臨書演習（半紙2、4字書） 第8回：臨書演習（半紙4、6字書） 第9回：臨書演習（判紙6字書）VTRによりこれまでの総括と再確認 第10回：臨書演習（清書） 第11回：臨書演習（主として北碑、「張猛龍碑」） 第12回：臨書演習（「張猛龍碑」、「高貞碑」） 第13回：臨書演習（「高貞碑」） 第14回：臨書演習 清書提出 第15回：書の定義、書道教育、書の鑑賞について講義						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に学書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織り交ぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%						
教科書	書名/九成宮醜泉銘（中国法書選No. 31） 著訳編註名/歐陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4454005310 必要に応じプリントを配布する						
参考書	書名/書道の古典（全三冊） 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）。						
授業の概要	書写、書道についての一般的総合的な基本的教養について解説する。書写、書道教育においても日常生活においても正書体である楷書の重要性は論を待たない。これに鑑み楷書古典名跡の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて楷書書法の習得をめざして学習する。毛筆の扱いに慣れるのが第一段階である。その為に執筆法、腕法、姿勢などの解説を理解した上で実践する。簡単な字例から次第に難易度を上げ習熟に導く。楷書書法の最要点である三過折の習得、字形の観察力と書美の鑑賞力の向上を目指して臨書に取り組む。まず、半紙で2字、4字、6字書と書く字数を増やしながら単に一字一字に注目するだけではなく章法にも配慮するよう指導する。						
到達目標	書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について理解と習得。 楷書書法の基本技法の習得。筆遣いの要点、字形のとり方、章法（文字の大きさ、配字、配列など）について理解習得。 楷書の書美の理解と表現。						
授業計画	第1回：演習に必要な用具用材についての確認と書写、書道のための参考文献の紹介。書写、書道の基本的知識、および文字・字体・書体・書風、表現について略説。 第2回：書写の基礎（執筆法、腕法、姿勢、運筆、三過折、刀法、字形のまとめ方）について解説。 第3回：書写演習（簡単な字例から）。 第4回：書写演習（前回の続き）、清書提出。 第5回：楷書の歴史と楷書古典名跡（「孔子廟堂碑」「九成宮醴泉銘」など）について解説。 第6回：臨書演習（主として唐楷 半紙2字書）。 第7回：臨書演習（半紙2、4字書）。 第8回：臨書演習（半紙4、6字書）。 第9回：臨書演習（半紙6字書）。VTRによりこれまでの総括と再確認。 第10回：臨書演習（「九成宮醴泉銘」「孔子廟堂碑」）、清書提出。 第11回：臨書演習（主として北碑「張猛龍碑」）。 第12回：臨書演習（「張猛龍碑」「高貞碑」）。 第13回：臨書演習（「高貞碑」）。 第14回：臨書演習（「張猛龍碑」「高貞碑」）、清書提出。 第15回：書の定義、書道教育、書の鑑賞について講義。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に学書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	書名/九成宮醴泉銘(中国法書選No. 31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310  必要に応じプリントを配布する。						
参考書	書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 教科書としても使用するので必ず購入すること。 必要な授業に際して忘れずに持参すること。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	釣 年子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「書法の基礎と楷書A」を受け多様な楷書の書美と書法を学習。条幅作品。						
授業の概要	楷書は日常生活においても、義務教育での書写においてもその重要性は論を待たないものである。本講では「楷法の極則」と称される九成宮醜泉銘を中心に、書法修得と共にその書美を研究し理解を深める。前期の「書法の基礎と楷書A」を受けて「九成宮醜泉銘」以外の楷書の古典を対象に学習する。解説と演習を通じて多様な書美を理解し、書法を修得習熟したい。						
到達目標	臨書の意義と効用についての理解。 楷書書美、その諸相（時代の様式、作者の個性）について理解、書法についても習得。 小楷演習（三過折、字形、章法） 条幅作品揮毫						
授業計画	第1回 「書法の基礎と楷書A」で未習の唐代の楷書古典（褚遂良、顔真卿など）について略説 褚法と顔法 第2回 臨書演習（褚遂良）雁塔聖教序の解説と演習 第3回 臨書演習（褚遂良 顔真卿） 第4回 臨書演習（顔真卿）提出 第5回 楷書の時代別特徴の解説 小楷古典の臨書演習（宣示表または樂毅論）拡大手本による臨書 第6回 臨書演習（魏晉小楷、樂毅論） 第7回 臨書演習（樂毅論） 第8回 臨書演習（魏晉小楷。樂毅論）提出 第9回 楷書書法の応用と展開、小楷演習（美人董氏墓誌、まず書いてみる） 第10回 臨書演習（一字一字の特徴を詳細に原本と比較検討する） 第11回 臨書演習（文字の大きさ、時間行間に注意する）、提出。条幅臨書について予告、解説。 第12回 条幅臨書演習（1）半切の形式解説と撰文 部分練習 第13回 条幅臨書演習（2）部分練習 第14回 条幅臨書演習（3）半切形式にまとめる 落款の解説と演習 第15回 条幅臨書演習（4）清書						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に学書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織り交ぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%						
教科書	書名/書道の古典（全三冊） 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336 書名/九成宮醜泉銘（中国法書選No. 31） 著訳編註名/歐陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4454005310 必要に応じプリントを配布する						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書B						
担当教員	花田 尊文						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	「書法の基礎と楷書A」を受け多様な楷書の書美と書法を学習。条幅作品。						
授業の概要	「書法の基礎と楷書A」で未習の楷書古典の臨書演習を中心に講義と解説も織りまぜて学習する。次に、半紙書きの経験を元に条幅（半切）書きの演習に取り組む。楷書による半切臨書作品の完成を目指す。						
到達目標	臨書の意義と効用について理解。 楷書の書美、その諸相（時代の様式、作者の個性）について理解、書法についても習得。 小楷演習（三過折、字形、章法）。 条幅作品揮毫。						
授業計画	<p>第1回：「書法の基礎と楷書A」で未習の唐代の楷書古典（褚遂良、顔真卿など）について略説。臨書演習に入る。</p> <p>第2回：臨書演習（褚遂良）。</p> <p>第3回：臨書演習（顔真卿）。</p> <p>第4回：臨書演習（褚遂良、顔真卿）、清書提出。</p> <p>第5回：楷書の特徴別の種類について解説。更に未習の古典について臨書演習（魏晋小楷、鍾繇・王羲之樂毅論）。</p> <p>第6回：臨書演習（鍾繇）。</p> <p>第7回：臨書演習（樂毅論）。</p> <p>第8回：臨書演習（鍾繇、樂毅論）、清書提出。</p> <p>第9回：楷書書法の応用と展開。小楷演習（美人董氏墓誌）、まず書いてみる。</p> <p>第10回：臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。</p> <p>第11回：臨書演習（文字の大きさ、字間行間に注意する）、清書提出。条幅臨書について予告、解説。</p> <p>第12回：条幅臨書演習（手本配布）、まず書いてみる。</p> <p>第13回：条幅臨書演習（一字々々の特徴を詳細に原本と比較検討する）。</p> <p>第14回：条幅臨書演習（文字の大きさ、字間行間にも注意する）。</p> <p>第15回：条幅臨書演習（止め、ハネ、払い、線の太細など細部の表現にも配慮する）、清書提出。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも自主的積極的に学書に取り組むことを希望する。						
授業方法	実技演習中心、講義解説も織りまぜる。						
評価基準と評価方法	作品、レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	<p>書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p> <p>書名/九成宮醜泉銘(中国法書選No. 31) 著訳編註名/欧陽詢 出版社/二玄社 ISBN/4544005310</p> <p>必要に応じプリントを配布する。</p>						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	正しいことばづかい／国語学講読A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の構造についての基礎的研究						
授業の概要	具体的な場面における日本語の運用能力を充実させたい人のための講義である。現代は、デジタル化された情報が、メディアの枠を超えてやりとりされる時代である。そこで扱われる情報は、ますます高度で幅広いものとなっている。本講義では、このような情報の最終表現のひとつとしての話しことば／書きことばについて、具体的な課題を提示し、解説していく。						
到達目標	「話して伝える」「読んで伝える」「聞いて伝える」「書いて伝える」ことが総合的に機能する、話しことば／書きことばコミュニケーションの能力の習得。						
授業計画	第1回 正しい日本語とは ことばのしくみについて 第2回 日本語の音声・音韻① 母音と子音 第3回 日本語の音声・音韻② 音節と音節構造 第4回 日本語の音声・音韻③ アクセントとイントネーション 第5回 日本語の文字・表記① 文字の機能と分類 第6回 日本語の文字・表記② 漢字、仮名について 第7回 日本語の文字・表記③ 現代の表記法について 第8回 日本語の語彙① 語構成と語構造 第9回 日本語の語彙② 語種について 第10回 日本語の語彙③ 語の意味について 第11回 日本語の語彙④ 語源、語史について 第12回 日本語の語彙⑤ 新語、流行語について 第13回 日本語の文章・文体① 文章論について 第14回 日本語の文章・文体② 文体論について 第15回 総論と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後に簡単なレポートを課すことがあるので、授業で学んだことを踏まえて整理すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	出席40%、レポート20%、期末試験40%						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論A						
担当教員	辻野 理花						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会と多文化共存						
授業の概要	比較文化にはさまざまな視点から考えていくことができるが、本講義では私たちの足元に存在する多様な文化について着目し、考察していく予定である。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在する。そこで私たちが暮らす日本の社会にみられる多文化的な状況を知り、こうした状況の中での多様な文化との共生について考えていきたい。また比較対象として、日本以外の社会についても見ていく予定である。						
到達目標	身近に存在する文化の多様性について理解を深める						
授業計画	第1回イントロダクション 第2回日本社会における在住外国人の概要① 第3回日本社会における在住外国人の概要② 第4回日本社会における在住外国人の概要③ 第5回グローバル化と日本社会 第6回法的制度 第7回在住外国人と労働① 第8回在住外国人と労働② 第9回在住外国人と労働③ 第10回在住外国人と労働④ 第11回在住外国人と暮らし① 第12回在住外国人と暮らし② 第13回在日外国人と教育① 第14回在日外国人と教育② 第15回まとめ  講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから時事問題を意識して知る習慣を身につけてください						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	授業中にかいてもらう簡単なレポート、課題、学期末レポート、平常点で評価する						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。 多文化社会への道 著 駒井洋編（明石書店）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論B						
担当教員	辻野 理花						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ジェンダーの比較文化						
授業の概要	比較文化にはさまざまな視点から考えていくことができる。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在する。本講では、比較の視点で複数の社会の文化をジェンダーをキーワードに考察していく。映像資料も活用しながら、他者の目でとらえた文化、創りだされるイメージやそれがもたらす影響などについても見ていく予定である。						
到達目標	文化の多様性について理解を深める						
授業計画	第1回 イントロダクション 第2回 ジェンダーについて① 第3回 ジェンダーについて② 第4回 ジェンダーについて③ 第5回 創られるジェンダーのイメージ① 第6回 創られるジェンダーのイメージ② 第7回 ジェンダーと性別役割分業① 第8回 ジェンダーと性別役割分業② 第9回 ジェンダーと性別役割分業③ 第10回 女性と通過儀礼① 第11回 女性と通過儀礼② 第12回 通過儀礼の多様性 第13回 女性と労働① 第14回 女性と労働② 第15回 まとめ  講義の進捗によって、順序や内容を変更することもあります						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業で学んだ視点から、みなさんが生活している社会について考えてみてください						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	授業中にかいてもらう簡単なレポート、学期末レポート、平常点で評価する						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論A/Studies for Second Language Acquisit						
担当教員	R. Harrison						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教師にとって必要な「第二言語習得論」について学ぶ。						
授業の概要	第二言語としての日本語学習者の習得メカニズムを理解するための授業である。まず、子供のときにどのように母語を習得したか（第一言語習得）について概観する。次いで、第二言語習得理論について基本的な知識を学ぶ。学習者の日本語がどのように発達していくのか、書く発達段階における特徴を見ながら、言語習得のメカニズムを理解するのが目標である。						
到達目標	語学教育の現場で起きる様々な現象やなぜ「第二言語習得論」が必要なのか、一緒に考えていく。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：第二言語習得論とは 第3回：中間言語1（学習者独自の言語体系） 第4回：中間言語2（中間言語の発達） 第5回：母語の影響1（母語の転移） 第6回：母語の影響2（言語転移） 第7回：習得順序 第8回：発達順序 第9回：インプット 第10回：アウトプット 第11回：文法を教える1（意識的な知識） 第12回：文法を教える2（教室での学習の役割） 第13回：文法を教える3（教室でのインプット） 第14回：まとめと質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎週のトピックの予習						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	授業への参加、課題、試験などの総合評価とする。 授業への授業参度・発言：態度：50% 期末試験あるいはレポート：50% 授業へ参加が70%に満たない場合は評価の対象としない。						
教科書	「日本語を教えるための第二言語習得論入門」 監修：白井泰弘 著者：大関浩美 くろしお出版 ISBN978-4-87424-480-7						
参考書	「日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド」著者：ヒューマンアカデミー ISBN978-4-7981-1788-1 「バイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること」著者：中島和子 ISBN4-7574-0282-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論B/Studies for Second Language Acquisit						
担当教員	R. Harrison						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教師にとって必要な「第二言語習得論」について学ぶ。						
授業の概要	年少者のバイリンガル、バイリテラル、バイカルチュラルな発達過程や学習メカニズムについての理解を深める。まず、バイリンガリズムの基礎理論を学び、次いで、学校教育、家庭教育、社会教育としてのバイリンガル教育について実践的な面から考察する。まとめとして、認知論、習得論、言語政策の視点から母語教育、外国語教育、継承語教育のあり方について考察する。						
到達目標	語学教育の現場で起きる様々な現象やなぜ「第二言語習得論」が必要なのか、一緒に考えていく。						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：インプット重視の指導 第3回：フォーカス・オン・フォーム 第4回：フィードバック 第5回：年齢の影響①（臨界期） 第6回：年齢の影響②（バイリンガリズム） 第7回：個人差の影響①（言語適性） 第8回：個人差の影響②（学習スタイル） 第9回：個人差の影響③（動機づけ） 第10回：個人差の影響④（学習ストラテジー） 第11回：教室で私たちにできること①（第二言語教育） 第12回：教室で私たちにできること②（習得は難しい？） 第13回：教室で私たちにできること③（教えたことはすぐ使う？） 第14回：まとめと質疑応答 第15回：レポート提出と質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎週のトピックの予習						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	授業への参加、課題、試験などの総合評価とする。 授業への授業参度・発言：態度：50% 期末試験あるいはレポート：50% 授業へ参加が70%に満たない場合は評価の対象としない。						
教科書	「日本語を教えるための第二言語習得論入門」 監修：白井泰弘 著者：大関浩美 くろしお出版 ISBN978-4-87424-480-7						
参考書	「日本語教育能力検定試験 完全攻略ガイド」著者：ヒューマンアカデミー ISBN978-4-7981-1788-1 「バイリンガル教育の方法 12歳までに親と教師ができること」著者：中島和子 ISBN4-7574-0282-1						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	中国書道史						
担当教員	花田 尊文						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	中国の書道史						
授業の概要	中国史の時代区分を追いながら書の歴史の変遷を講ずる、併せて政治・経済・思想や文化の事情を知り、歴史上の人物像についても解説しより深い理解を目指したい。テキストに沿って進行、より精度の高い文字資料の映像や実物資料の提示と解説も行う。						
到達目標	漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開など、中国の書道史の基本的事項について理解習得する。						
授業計画	<p>第1回：諸注意、伝達事項、シラバス配布とその説明、工具書や関連参考文献の紹介。 中国書道史の導入として文字の始まり、つまり漢字創成の伝説と実際について解説。</p> <p>第2回：殷、西周。(甲骨文、金文、列国体、石鼓文)</p> <p>第3回：西周、東周。(列国体、石鼓文、簡牘書、帛書、篆書)</p> <p>第4回：秦、前漢。(篆書、簡牘書、帛書、隸書)</p> <p>第5回：後漢。(八分隸、漢碑)</p> <p>第6回：三国、西晋。(残紙、楷書の定立、書人の登場)</p> <p>第7回：東晋。(王羲之・王献之、書芸術の出現)</p> <p>第8回：南北朝。(南朝＝羲之の継承、北朝＝北碑、龍門二十品など)</p> <p>第9回：隋、唐。(墓誌銘、楷書の完成、初唐の三大家)</p> <p>第10回：唐。(中唐・晩唐の書、顔真卿)</p> <p>第11回：宋。(淳化閣帖、北宋の四大家、南宋・金の書)</p> <p>第12回：元、明。(趙孟頫・復古主義、元末明初の書人)</p> <p>第13回：明。(文人主義、中期の書道興隆、帖学、董其昌、明末ロマン主義)</p> <p>第14回：清。(明末清初の書、帖学派・碑学派)</p> <p>第15回：清。(揚州八怪、金石学、篆隸の書、篆刻)</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業は中国史の時代区分を追いながら進める。よって、中学高校レベルの中国史の基礎教養を必要とするのでその復習をしておくこと。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	レポートの提出50%。平常点50%。						
教科書	<p>書名/中国書道史年表 著訳編註名/玉村霽山 出版社/二玄社 ISBN/4544012414 必要に応じプリントを配布する。</p>						
参考書	<p>書名/書道の古典(全三冊) 著訳編註名/大東文化大学書道研究所 出版社/二玄社 ISBN/4544014336</p>						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	地域文化論A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の祭礼と芸能						
授業の概要	この講義では、地域文化を知るためのアプローチのひとつとして、文化人類学のフィールドワークの手法を紹介する。それを踏まえ、日本の地域文化の事例をいくつか取り上げ、その歴史的、文化的、および社会的な側面について概観する。なお、講義はわかりやすいように、適宜、ビデオ映像やアニメーションなどを用いながら進めていく。今年度は「祭礼（お祭り）」を中心として、日本の歴史と芸能について考える。						
到達目標	今も各地に残る「ふるさとの芸能」や「お祭り」の意味と意義を知るとともに、その歴史的な背景を学ぶ。						
授業計画	第1回 古代の祭礼1 神と祭礼 神楽・巫女舞 第2回 古代の祭礼2 仏と祭礼 精霊会・来迎会 第3回 中世の祭礼1 中央から地方へ 第4回 中世の祭礼2 民衆の参加 第5回 中世の祭礼3 風流と盆踊り 第6回 中世から近世の祭礼1 祇園祭1 第7回 中世から近世の祭礼2 祇園祭2 第8回 中世から近世の祭礼3 芸能の民 いたこ・絵解き 第9回 中世から近世の祭礼4 芸能の民 平曲・幸若舞 第10回 中世から近世の祭礼5 猿楽から能へ 黒川能 第11回 近世の祭礼1 都市と芸能 第12回 近世の祭礼2 都市から地方へ 人形劇の系譜 第13回 近世の祭礼3 都市から地方へ 歌舞伎の系譜 第14回 近世の祭礼4 祝福芸 お笑いの系譜 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	地域文化論B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	ミュージカルと日本演劇						
授業の概要	地域文化論Aに続いて「地域文化」について考える。私たちにとって身近な地域文化を通じて、地域文化・社会のあり方を考えていきたい。日本の事例のほか、海外の事例についても可能な限り取り上げて、多様な意味をもつ地域文化を考えてみたい。適宜、ビデオ映像などを用いながら授業をすすめていく予定である。今年度は特に「ミュージカル」を取り上げ、イギリス・アメリカの現代文化が、どのように日本文化に影響を与えているかを考える。						
到達目標	ミュージカルという演劇の歴史、および日本への影響を学ぶ。						
授業計画	第1回 日本の近代演劇史の概観 第2回 オペラからミュージカルへーミュージカルの誕生ー 第3回 アメリカでのショービジネスの成立とミュージカル 第4回 「オクラホマ」から「サウンド・オブ・ミュージック」 第5回 ロジャースとハマースタイン（1940～50年代） 第6回 「ウエスト・サイド物語」 第7回 「マイ・フェア・レディ」 第7回 ハロルド・プリンスとジェームス・ロビンソンとソンドハイムの時代（1960年代） 第9回 ロンドンミュージカル「コーラスライン」と「キャッツ」 第10回 「オペラ座の怪人」 第10回 アンドリュー・ロイド・ウェバー（1970～80年代） 第11回 ディズニーミュージカル「ライオンキング」 第12回 アメリカの苦悩「レント」とラーソン（一九九〇年代以降） 第13回 日本でのミュージカルの上演 第14回 現在のミュージカル・他の演劇との関係 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配付						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学A／日朝対照言語学A						
担当教員	金 美善						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日韓対照言語学						
授業の概要	朝鮮語は日本語と統語構造が似ている類似点の多い言語とされるが、音韻構造や表現、言語行動の面では相違点の多い言語でもある。 この授業では、日本語と朝鮮語の類似点や相違点について、朝鮮語の構造を具体的に学習しながら両言語の対照を行う。具体的には、母音、子音、終声、連音化、辞書の引き方などについて考える。						
到達目標	基礎的な韓国語の文の構造を知ること为目标とします						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：朝鮮語ってどんな言語？</li> <li>2. 朝鮮語の母音、日本語の母音</li> <li>3. 朝鮮語の子音、日本語の子音</li> <li>4. 朝鮮語の音節構造、日本語の音節構造</li> <li>5. 朝鮮語のパソコン入力</li> <li>6. 朝鮮語の名詞文、日本語の名詞文 1</li> <li>7. 朝鮮語の名詞文、日本語の名詞文 2</li> <li>8. 朝鮮語の用言文、日本語の用言文 1</li> <li>9. 朝鮮語の用言文、日本語の用言文 2</li> <li>10. いろんな言語の教え方</li> <li>11. 朝鮮語の敬語体系、日本語の敬語体系</li> <li>12. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 1</li> <li>13. 調べてみよう、日本語と他言語の類似点・相違点 2</li> <li>14. 予備日</li> <li>15. 期末試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の内容をまとめて提出する課題があります。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席、平常点、レポート						
教科書	プリントを用意します						
参考書	韓日辞書						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学B／日朝対照言語学B						
担当教員	金 美善						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日韓対照言語学						
授業の概要	朝鮮語は日本語と統語構造が似ている類似点の多い言語とされるが、音韻構造や表現、言語行動の面では相違点の多い言語でもある。この授業では、日本語と朝鮮語の類似点や相違点について、朝鮮語の構造を具体的に学習しながら両言語の対照を行う。具体的には、名詞文、名詞文の否定と尊敬、用言文、数詞、疑問文、尊敬表現、文体などについて考える。						
到達目標	韓国語のいろいろな文の構造を知り、辞書を使って簡単な文の内容が翻訳できることを目標とします。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：朝鮮語の構造について</li> <li>2. 朝鮮語の名詞文、日本語の名詞文</li> <li>3. 朝鮮語否定表現、日本語の否定表現</li> <li>4. 朝鮮語の尊敬表現、尊敬表現</li> <li>5. 朝鮮語の用言文、日本語の用言文</li> <li>6. 朝鮮語の数詞、日本語の数詞</li> <li>7. 朝鮮語の疑問文、日本語の疑問文</li> <li>8. 朝鮮語の尊敬表現、日本語の尊敬表現</li> <li>9. 朝鮮語の文体、日本語の文体</li> <li>10. 朝鮮語と日本語の喜怒哀楽の言語表現 1</li> <li>11. 朝鮮語と日本語の喜怒哀楽の言語表現 2</li> <li>10. 朝鮮語と日本語の親疎関係の言語表現</li> <li>13. 調べてみよう、日本語と朝鮮語の類似点・相違点 1</li> <li>14. 調べてみよう、日本語と朝鮮語の類似点・相違点 2</li> <li>15. 調べてみよう、日本語と朝鮮語の類似点・相違点 3</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業の内容をまとめて提出する課題があります。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	出席、平常点、レポート						
教科書	プリントを用意します						
参考書	韓日辞書						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学A						
担当教員	古川 典代						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本語を客観的に捉える視点を育成する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）を把握することで、学習者の母語の干渉についても理解を深める。						
到達目標	中国語の特性を認識し、日中両言語間の類似性と相違性を把握する。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中国語の特性「語順」「人称代名詞」「指示代名詞」</li> <li>②日中の特性「格」「名詞句の階層」</li> <li>③日中の特性「他動性」「二項述語階層」「所有傾斜」</li> <li>④日本語に見られる中国語の影響</li> <li>⑤日中同形異義語</li> <li>⑥中国における日本語の誤用例</li> <li>⑦発音面における難易度、第一外国語の干渉</li> <li>⑧中国人が日本語学習時に直面する問題点</li> <li>⑨日中文化差異による言語干渉</li> <li>⑩日中映画ドラマ字幕翻訳</li> <li>⑪まとめ</li> <li>⑫グループごとにテーマを決めて研究発表</li> <li>⑬グループごとにテーマを決めて研究発表</li> <li>⑭グループごとにテーマを決めて研究発表</li> <li>⑮総括</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。						
授業方法	講義（グループ発表を含む）						
評価基準と評価方法	日常点50 発表30 レポート20						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学B						
担当教員	古川 典代						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。前期で日中対照言語学の概要を把握したので、後期は代表論文を通して日中対照言語学の研究状況を把握する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）干渉について誤用例分析を行う。						
到達目標	日中対照言語学Aの基礎のもと、中国語母語話者への日本語教育時における母語の干渉について理解し、教授効果をあげる工夫ができるようにする。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>①中国語指示詞の遠近対立について</li> <li>②三人称代名詞の対象研究</li> <li>③日中両国語における数量表現と名詞</li> <li>④日本語と中国語の同形語</li> <li>⑤日本語名詞のトコロ（空間）性—中国語との関連で—</li> <li>⑥中国人日本語学習者の誤用分析</li> <li>⑦まとめ・小テスト</li> <li>⑧テーマを決めてグループディスカッション</li> <li>⑨グループによる研究発表</li> <li>⑩グループによる研究発表</li> <li>⑪日中両国の若者言葉比較対照</li> <li>⑫日中両国のタブーの違い</li> <li>⑬日中両国の色彩感覚の違い</li> <li>⑭グループごとにテーマを決めてレポートをまとめる</li> <li>⑮発表</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	毎回の授業内容について、感想や疑問点を提出。次回時に質問に対する回答などのコメントを発表する。						
授業方法	講義（グループ発表を含む）						
評価基準と評価方法	日常点50 発表20 レポート30						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学A						
担当教員	里井 真理子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究						
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろんな側面を対照研究することで、両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。						
到達目標	日本語と英語の対照研究における基本的な事柄を学ぶことができます。						
授業計画	第1回 ガイダンス 英語と日本語の違いについて 第2回 言語の歴史 (1) 英語編 第3回 言語の歴史 (2) 日本語編 第4回 言語の語彙 (1) 英語編 第5回 言語の語彙 (2) 日本語編 第6回 言語の語順 (1) 英語編 第7回 言語の語順 (2) 日本語編 第8回 言語の音韻体系 (1) 英語編 第9回 言語の音韻体系 (2) 日本語編 第10回 言語の文字体系 (1) 英語編 第11回 言語の文字体系 (2) 日本語編 第12回 丁寧表現 (1) 英語編 第13回 丁寧表現 (2) 日本語編 第14回 言語の方言 (1) 英語編 第15回 言語の方言 (2) 日本語編						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：配布プリントを読んでください。 授業後学習：授業内容を簡単にまとめておいてください。復習テストの勉強にもなります。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	授業時の活動 (50%) + 小テスト (30%) + レポート (20%)						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『日本語教師のための 言語学入門』小泉 保著、大修館書店 ISBN4-469-22091-4 等						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学B						
担当教員	里井 真理子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究						
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろんな側面を対照研究することで、両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。						
到達目標	日本語と英語の対照研究における基本的な事柄を学ぶことができます。						
授業計画	第1回 言語と社会階級 (1) 英語編 第2回 言語と社会階級 (2) 日本語編 第3回 人種・民族による語差 第4回 性別による語差 (1) 英語編 第5回 性別による語差 (2) 日本語編 第6回 年齢による語差 第7回 状況による語差 第8回 ことばの持つイメージ 第9回 言語接触 (1) 英語編 第10回 言語接触 (2) 日本語編 第11回 非言語伝達 (1) 英語編 第12回 非言語伝達 (2) 日本語編 第13回 言語と文化 (1) 英語編 第14回 言語と文化 (2) 日本語編 第15回 総まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：配布プリントを読んでください。 授業後学習：授業内容を簡単にまとめておいてください。復習テストの勉強にもなります。						
授業方法	講義、実技						
評価基準と評価方法	授業時の活動 (50%) + 小テスト (30%) + レポート (20%)						
教科書	適宜プリント配布						
参考書	『日本語教師のための 言語学入門』小泉 保著、大修館書店 ISBN4-469-22091-4 等						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本文化学外研修A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	日本語を実践的に用いている現場を知る。						
授業の概要	日本語を実践的に用いている現場を訪ね、あるいは活動に参加して、社会の中でのことばのあり方を知る。具体的には、①神戸新聞社において記事編集・紙面制作の現場と、新聞印刷の現場の見学。②兵庫県国際交流協会が行う「日本語教育実践講座」の観察実習への参加の二つを予定している。						
到達目標	日本語を用いている現場への理解を深める。						
授業計画	第1回 講義：本授業のテーマおよび学外研修についてのガイダンス 第2回 講義：「学外研修①」についての説明 第3回 「学外研修①」：神戸新聞社見学 第4回 講義：「学外研修①」の振り返りとまとめ 第5回 講義：「学外研修②」についての説明 第6回 「学外研修②」：「日本語教育実践講座」観察実習 第7回 講義：「学外研修②」の振り返りとまとめ 第8回 講義：総まとめ ※第1・2・4・5・7・8回は講義 第3・6回は学外研修（授業時間外の研修）						
授業外における学習（準備学習の内容）	新聞を手に取り、作り手側に立って読んでみてほしい。						
授業方法	講義および学外研修						
評価基準と評価方法	各回の学外研修後のレポートと最終レポートによって評価する。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語・日本文化学外研修B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	王朝びとの生活と文化の探究						
授業の概要	古典文学にゆかりの地を訪ねて、王朝びとの生活と文化の様相を探究する。 具体的には、京都御所や京都の寺社を訪ねて、王朝びとの住まいについて考察し、京都風俗博物館などを訪ねて、王朝人の装束について学習する。 また、源氏物語ミュージアムや古典文学に関する旧跡を訪ねて、『源氏物語』など、古典文学の背景を探究する。						
到達目標	王朝びとの生活と文化について深い理解を持つ。						
授業計画	第1回 講義：本授業のテーマおよび学外研修についてのガイダンス 第2回 講義：王朝びとの住まいと装束について（「学外研修①」についての説明） 第3回 学外研修①：京都御所・京都風俗博物館・平安神宮・廬山寺など 第4回 講義：「学外研修①」の振り返りとまとめ 第5回 講義：古典文学にゆかりの地について（「学外研修②」についての説明） 第6回 学外研修②：宇治市源氏物語ミュージアム・平等院・宇治上神社など 第7回 講義：「学外研修②」の振り返りとまとめ 第8回 講義：実地踏査によって、探究したことについてのまとめ  第1・2・4・5・7・8回は講義 第3・6回は学外研修（授業時間外の研修）						
授業外における学習（準備学習の内容）	王朝びとの生活と文化に関する本を読んだり、映像を見たりして、理解を深めるための努力をする。						
授業方法	講義と学外研修						
評価基準と評価方法	レポート 80% 授業・学外研修に対する取り組み 20%						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	適宜提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学を学ぶA						
担当教員	吉井 健						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばから見る私たちの行為・思考・文化						
授業の概要	ある意味領域に属する、いくつかの語の意味の共通点や、意味の来歴を探ると、その意味領域を日本語話者がどのように捉えてきたかということがわかる。また、ある行為を名づける語の意味をさかのぼって調べてみることによって、その行為が日本語話者にどのように捉えられてきたのか、ヒントを得られることがある。「ことわる」「あきらめる・観念する」「わびる・あやまる」などを例として、それぞれの意味・意味の変遷、おなじ意味領域に属する動詞の共通点を考え、日本語話者の捉え方を読み解いてゆく。						
到達目標	ことばの中につまんでいる歴史と知恵を感得すること。						
授業計画	<p>おおむね、次の様な順序でことばについて具体例を見つつ考えて行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 インTRODクシヨン</li> <li>第2回 ことわる</li> <li>第3回 あきらめる・観念する 1</li> <li>第4回 あきらめる・観念する 2</li> <li>第5回 ほめる</li> <li>第6回 しかる・おこる</li> <li>第7回 わびる・あやまる 1</li> <li>第8回 わびる・あやまる 2</li> <li>第9回 感謝する</li> <li>第10回 ねぎらう</li> <li>第11回 たのむ</li> <li>第12回 命令する</li> <li>第13回 うそをつく 1</li> <li>第14回 うそをつく 2</li> <li>第15回 まとめ</li> </ul>						
授業外における学習(準備学習の内容)	課題の小レポートを仕上げる。 学んだことを、だれかに話してあげる。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	小レポート20%レポート35%平常点45%						
教科書	プリント配布						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学を学ぶB						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばから見る私たちの行為・思考・文化						
授業の概要	ある意味領域に属する、いくつかの語の意味の共通点や、意味の来歴を探ると、その意味領域を日本語話者がどのように捉えてきたかということがわかる。また、ある行為を名づける語の意味をさかのぼって調べてみることによって、その行為が日本語話者にどのように捉えられてきたのか、ヒントを得られることがある。「たえる・がまんする」「愛する・恋ふ・ほれる」「語る・言う・話す」などを例として、それぞれの意味・意味の変遷、おなじ意味領域に属する動詞の共通点を考え、日本語話者の捉え方を読み解いてゆく。						
到達目標	ことばの中につまんでいる歴史と知恵を感得すること。						
授業計画	<p>おおむね、次の様な順序でことばについて具体例を見つつ考えて行く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 食う・食べる</li> <li>第2回 愛する</li> <li>第3回 ほれる</li> <li>第4回 笑う・笑む 1</li> <li>第5回 笑う・笑む 2</li> <li>第6回 たえる・がまんする 1</li> <li>第7回 たえる・がまんする 2</li> <li>第8回 よぶ</li> <li>第9回 語る・言う・話す 1</li> <li>第10回 語る・言う・話す 2</li> <li>第11回 考える</li> <li>第12回 なやむ・わずらう</li> <li>第13回 恥じる・照れる</li> <li>第14回 うらやむ</li> <li>第15回 まとめ</li> </ul>						
授業外における学習（準備学習の内容）	課題の小レポートを仕上げる。 学んだことを、だれかに話してあげる。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	小レポート20%レポート35%平常点45%						
教科書	プリント配布						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育実習						
授業の概要	日本語教育の模擬実習を行う。初級教材「みんなの日本語」の教材研究のあと、模擬授業のためなさまざまな教授法について概説する。また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニケーション練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、模擬授業を実施する。授業外ではアメリカ、アジアの協定校からの語学留学生の日本語パートナーとして、日本語習得の手伝いをし、日本語指導だけではなく、異文化コミュニケーションも体験することができる授業となる。 また、授業の一環として、神戸大留学生センターや海外技術者研修センター(AOTS)など学外の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあるので、前後の時間割に余裕をもって履修すること。						
到達目標	実際に日本語の授業を行えるようになる。						
授業計画	第1回 実習指導1・教授法 第2回 実習指導2・教材研究 第3回 実習指導3・教材研究 第4回 実習指導4・教案指導 第5回 実習指導5・教案指導 第6回 文型の調べ方 第7回 文型の説明の仕方 第8回 初級のポイント 第9回 模擬授業1 第10回 模擬授業2 第11回 模擬授業3 第12回 模擬授業4 第13回 模擬授業5 第14回 模擬授業6 第15回 模擬授業のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	模擬授業の為の資料探しや、教材作を積極的に行うこと。						
授業方法	講義形式+実習(模擬授業)						
評価基準と評価方法	平常点50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
教科書	みんなの日本語 初級I本冊(スリーエーネットワーク)2,500円 ISBN4-88319-102-8						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育実習						
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、模擬授業と教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の4技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置く。最後に学内の英語教員、あるいは学外の日本語学習者などを対象とした教壇実習を行う。この教壇実習は、媒介語、板書、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。また、授業の一環として神戸大学留学生センターや海外技術者研修センター(AOTS)など学外の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがある。前後の時間割に余裕をもって履修すること。						
到達目標	実際に日本語の授業を行えるようになる。						
授業計画	第1回 レポートの好評 第2回 上手な教え方のコツ 第3回 上手な教え方の工夫 第4回 ゲームを作ってみましょう 第5回 模擬授業1 第6回 模擬授業2 第7回 模擬授業3 第8回 模擬授業4 第9回 模擬授業5 第10回 模擬授業6 第11回 模擬授業7 第12回 模擬授業8 第13回 模擬授業9 第14回 教壇実習1 第15回 教壇実習2						
授業外における学習(準備学習の内容)	模擬授業の為の資料探しや、教材作りが必要です。						
授業方法	講義形式+実習(模擬授業)						
評価基準と評価方法	平常点50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
教科書	みんなの日本語 初級I本冊(スリーイーネットワーク)2,500円 ISDN4-88319-102-8						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する外国語としての日本語教育と、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める						
授業の概要	外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語教師に必要な基礎的な技能、知識を身につける。</li> <li>2. 留学生との交流を通じて、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める。</li> <li>3. 日本語教育の歴史と現状をふまえ、世界のなかの日本語について、見識を深める。</li> <li>4. 日本語教育に関わる時事的な事柄について見聞を広める。</li> </ol>						
授業計画	第1回 世界のなかの日本語① イン트로ダクション 第2回 世界のなかの日本語② 日本語教育の現状・国内 第3回 世界のなかの日本語③ 日本語教育の現状・海外 第4回 日本語教師の現場① 国内編 第5回 日本語教師の現場② 海外編 第6回 日本語教育の現状と問題点① 国内編（1） 第7回 日本語教育の問題点② 国内編（2） 第8回 日本語教育の問題点③ 海外編 第9回 日本語能力試験の実態 第10回 日本語教育能力検定の実態 第11回 日本語教育スタンダード① 言語構造能力 第12回 日本語教育スタンダード② 社会言語能力 第13回 日本語教育の歴史① 第14回 日本語教育の歴史② 第15回 総論						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後に簡単なレポートを課すことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	出席（小レポート含む）50%、期末レポート50%						
教科書	プリントを配付する						
参考書	授業中に紹介する						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育入門						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する外国語としての日本語教育と、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める						
授業の概要	外国語としての日本語教育を実践的に学び、日本語を外国語として学ぶ人々への理解を深めるなかで、日本語教育の基礎的な知識を学ぶ。日本語教育を通じて、自身の身近な問題から、グローバル化した社会問題まで、多角的な視野と思考力を身に付けるためのトレーニングを行なう。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語教師に必要な基礎的な技能、知識を身につける。</li> <li>2. 留学生との交流を通じて、異文化間コミュニケーション、多文化共生についての理解を深める。</li> <li>3. 日本語教育の歴史と現状をふまえ、世界のなかの日本語について、見識を深める。</li> <li>4. 日本語教育に関わる時事的な事柄について見聞を広める。</li> </ol>						
授業計画	第1回 世界のなかの日本語① イン트로ダクション 第2回 世界のなかの日本語② 日本語教育の現状・国内 第3回 世界のなかの日本語③ 日本語教育の現状・海外 第4回 日本語教師の現場① 国内編 第5回 日本語教師の現場② 海外編 第6回 日本語教育の現状と問題点① 国内編（1） 第7回 日本語教育の問題点② 国内編（2） 第8回 日本語教育の問題点③ 海外編 第9回 日本語能力試験の実態 第10回 日本語教育能力検定の実態 第11回 日本語教育スタンダード① 言語構造能力 第12回 日本語教育スタンダード② 社会言語能力 第13回 日本語教育の歴史① 第14回 日本語教育の歴史② 第15回 総論						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後に簡単なレポートを課すことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	出席（小レポート含む）50%、期末レポート50%						
教科書	プリントを配付する						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の文法の仕組みを客観的に考える。</li> <li>・外国人に日本語を教える時のポイントやコツを学ぶ。</li> <li>・日本語を教えることはどういうことを学ぶ。</li> </ul>						
授業計画	第1回 はじめに・名詞文 第2回 形容詞文 第3回 動詞の分類・辞書形・ 第4回 ます形/て形/た形 第5回 条件 第6回 自動詞・他動詞 第7回 テンス 第8回 アスペクト 第9回 モダリティ 第10回 終助詞 第11回 副詞 第12回 接続詞 第13回 待遇表現・敬語 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題、試験などの総合評価とする。</li> <li>・小テストを含めてテストは必ず受けること。</li> </ul> 提出物:10% 授業参加・積極性:50% 期末試験あるいはレポート:40%						
教科書	「ベーシック日本語教育」（ひつじ書房）佐々木泰子編 ISBN 978-4-89476-285-5						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	藤井 千枝						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、国語教育とは何が違うのかという視点を獲得していく。「話す」「聞く」「読む」「書く」の技能別指導方法も具体的に学ぶ。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の文法の仕組みを客観的に考える。</li> <li>・外国人に日本語を教える時のポイントやコツを学ぶ。</li> <li>・日本語を教えることはどういうことかを学ぶ</li> </ul>						
授業計画	第1回 はじめに・名詞文 第2回 形容詞文 第3回 動詞の分類・辞書形 第4回 ます形／て形／た形 第5回 条件 第6回 自動詞・他動詞 第7回 テンス 第8回 アスペクト 第9回 モダリティ 第10回 終助詞 第11回 副詞 第12回 接続詞 第13回 待遇表現・敬語 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもあります） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語教授法基礎A Bは学んでいるものとする。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題、試験などの総合評価とする。</li> <li>・小テストを含めてテストは必ず受けること。</li> </ul> 提出物・10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	「ベーシック日本語教育」（ひつじ書房）佐々木泰子編 ISBN 978-4-89476-285-5						
参考書	授業の中で紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、中級、上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。このクラスでは留学生との交流授業を奨めており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の文法の仕組みを客観的に考える。</li> <li>外国人に日本語を教える時のポイントやコツを学ぶ。</li> <li>日本語を教えることはどういうことを学ぶ。</li> </ul>						
授業計画	第1回 初級の指導 第2回 中級の指導 第3回 上級の指導 第4回 日本語の誤用分析 第5回 日本語の音声1 (アクセントなど) 第6回 日本語の音声2 (調音点・聴音法) 第7回 日本語の音声3 (発音表記) 第8回 日本語の音声4 (学習者の母語との関係) 第9回 対照言語学1 (言語類型論) 第10回 対照言語学2 (英・中・韓国語との比較) 第11回 対照言語学3 (英・中・韓国語との比較) 第12回 年少者への日本語教育・第二言語習得 第13回 聴解演習1 第14回 聴解演習2 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題、試験などの総合評価とする。</li> <li>小テストを含めてテストは必ず受けること。</li> </ul> 提出物:10% 授業参加・積極性:50% 期末試験あるいはレポート:40%						
教科書	「ベーシック日本語教育」(ひつじ書房)佐々木泰子編 ISBN 978-4-89476-285-5						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	藤井 千枝						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、中級・上級での「会話」「聴解」「作文」教育などの実際も学びながら、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとりあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語教育、継承言語など、日本語をとりまく様々な問題点にもふれる。このクラスでは、留学生との交流授業を奨めており、場合によっては学外の施設へ見学に行く場合もある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の文法の仕組みを客観的に考える。</li> <li>・外国人に日本語を教える時のポイントやコツを学ぶ。</li> <li>・日本語を教えることはどういうことかを学ぶ。</li> </ul>						
授業計画	第1回 初級の指導 第2回 中級の指導 第3回 上級の指導 第4回 日本語の誤用分析 第5回 日本語の音声1 (アクセントなど) 第6回 日本語の音声2 (調音点・調音法) 第7回 日本語の音声3 (発音表記) 第8回 日本語の音声4 (学習者の母語との関係) 第9回 対照言語学1 (言語類型論) 第10回 対照言語学2 (英・中・韓国語との比較) 第11回 対照言語学3 (英・中・韓国語との比較) 第12回 年少者への日本語教育・第二言語習得 第13回 聴解演習1 第14回 聴解演習2 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習 (準備学習の内容)	日本語教授法基礎A Bは学んでいるものとする。 言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、発表やグループワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題、試験などの総合評価とする。</li> <li>・小テストを含めてテストは必ず受けること。</li> </ul> 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	「ベーシック日本語教育」(ひつじ書房) 佐々木泰子編 ISBN 978-4-89476-285-5						
参考書	授業の中で紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	河野 美抄子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説1 第3回：日本語教育概説2 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法2 TPR 第8回：外国語教授法3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法4 トイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法5 OPI 第11回：外国語教授法6 ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	適宜プリントを配付する						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	山極 美奈子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語教育入門 第2回：日本語教育概説1 第3回：日本語教育概説2 第4回：コースデザイン 第5回：シラバス 第6回：外国語教授法1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回：外国語教授法2 TPR 第8回：外国語教授法3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回：外国語教授法4 サイレント・ウェイ 第10回：外国語教授法5 OPI 第11回：外国語教授法6 ナチュラル・アプローチ 第12回：日本語のテスト 第13回：評価法（テストの作り方） 第14回：留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回：まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	適宜プリントを配付する						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	河野 美抄子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究 1 第3回：教科書研究 2 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 第8回：「読む」「書く」指導法 1 第9回：「読む」「書く」指導法 2 第10回：「読む」「書く」指導法 3 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	適宜プリントを配付する						
参考書	授業中に紹介する						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	山極 美奈子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付ける。また、交流授業を通して異文化コミュニケーションについて学ぶ。						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究 1 第3回：教科書研究 2 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 第8回：「読む」「書く」指導法 1 第9回：「読む」「書く」指導法 2 第10回：「読む」「書く」指導法 3 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容）	言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
教科書	適宜プリントを配付する						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語史A						
担当教員	吉井 健						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の史的変遷を学ぶ。						
授業の概要	日本語の歴史を知ることは、現代語で起こっているさまざまな現象を理解する際にも有益である。ことばと社会の関わりを考える上でも、基礎的な知識となる。この授業では、各時代の資料を見ることに重点を置く。表記や文体の変遷を主に取り上げるが、音韻や文法・語彙の問題にも触れたい。そうして各時代の資料の特徴を把握した上で、いくつかのテーマに沿って通時的に見ていく。						
到達目標	日本語の各時代の主な資料の特徴を知る。 各時代の文章に触れ、どのような変化が起こったのか知る。その知識を現代語の研究あるいは古典文学研究にも応用できる力を身につける。						
授業計画	第1回 時代区分 日本史の復習 第2回 文章文体の変遷 1 上代① 第3回 文章文体の変遷 1 上代② 第4回 文章文体の変遷 1 上代③ 第5回 (小テスト) 漢文訓読① 第6回 漢文訓読② 第7回 文章文体の変遷 2 中古① 第8回 文章文体の変遷 2 中古② 第9回 文章文体の変遷 3 中世・近世 第10回 文章文体の変遷 5 近代 第11回 (小テスト) 語彙の変遷① 第12回 語彙の変遷②、辞書 第13回 語彙の変遷②、男女のことば 第14回 指示語・人の呼称 第15回 (総復習テスト)						
授業外における学習(準備学習の内容)	準備は特に必要ないが、紹介した古典文学や記録を自ら見るようにしてほしい。 小テストを行い、復習の助けにする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト+総復習テスト70% 平常点30%						
教科書	プリント配布						
参考書	山口仲実『日本語の古典』(岩波新書) ISBN978-4-00-431287-1						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語史B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語の史的変遷を学ぶ。						
授業の概要	日本語の歴史を知ることは、現代語で起こっているさまざまな現象を理解する際にも有益である。ことばと社会の関わりを考える上でも、基礎的な知識となる。この授業では、文法的な変遷に関するテーマを、いくつか選んで見てゆく。						
到達目標	日本語の各時代の主な資料の特徴を知る。どのような文法的变化があったのかを知る。その変化がどのように起こったのか考え、現代語の研究あるいは古典文学研究にも応用できる力を身につける。						
授業計画	第1回 乱れと変化 第2回 活用形のはたらきと活用の変遷 第3回 準体句 第4回 連体形・終止形の同一化 第5回 二段活用的一段化 第6回 (小テスト) 係り結びとその崩壊① 第7回 係り結びとその崩壊② 第8回 格の明示化 第9回 ヴォイス 第10回 テンス・アスペクト 第11回 モダリティ 第12回 (小テスト) 敬語① 第13回 敬語② 第14回 条件表現 第15回 (総復習テスト)						
授業外における学習(準備学習の内容)	高校までに習った古典文法の基本的知識を復習しておいてほしい(特に品詞のはたらき、活用)。復習を必ず行い、理解を定着させるように努めてほしい。小テストを行い、復習の助けにする。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト+総復習テスト70% 平常点30%						
教科書	プリント配布						
参考書	高山善行・青木博史編『ガイドブック日本語文法史』(ひつじ書房) ISBN978-4-89476-489-7						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの関心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生同士の作業やディスカッションを通じて、日本語の文法のごく基礎的な知識やコミュニケーションの問題について考えていく。						
到達目標	言葉はコミュニケーションの道具である。それはそうなのだが、その場合のコミュニケーションを「人との会話」程度に考えれば、それは言葉の恩恵の過小評価となる。なぜなら、たとえば物の本などを通して知識が増えるのも、そこにながしかの問題点があるときにそれを指摘できるのも、人に代わって自らの意見を表明しようと思えばそれが許されるのも、広くはすべて、言葉のおかげであり、言葉によるコミュニケーションの賜だからである。そして、そういう意味でのコミュニケーション力を磨いていくことが大学での学びの大きな柱になるのであれば、そのために支障がないよう1年次からさっそく準備をはじめたい。そのための一助にしてもらおうというのが、この科目の意図するところとなる。						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 日本語の特徴1— ものの教え方 第4回 日本語の特徴2— 人の呼称 第5回 日本語の文法を考える1— 動詞と文型 第6回 日本語の文法を考える2— 動詞と活用 第7回 日本語の文法を考える3— 動詞と名詞 第8回 日本語の文法を考える4— 形容詞と感情 第9回 動詞と形容詞の問題まとめ 第10回 コミュニケーションの問題1— 敬語1 第11回 コミュニケーションの問題2— 敬語2 第12回 コミュニケーションの問題3— ことばの選択・コードスイッチング 第13回 文章表現1— お知らせのメール 第14回 文章表現2— お願いのメール 第15回 コミュニケーションの問題・文章表現のまとめ・試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10% 授業参加・積極性:50% 試験あるいはレポート:40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの関心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生同士の作業やディスカッションを通じて、日本語の文法のごく基礎的な知識やコミュニケーションの問題について考えていく。						
到達目標	言葉はコミュニケーションの道具である。それはそうなのだが、その場合のコミュニケーションを「人との会話」程度に考えれば、それは言葉の恩恵の過小評価となる。なぜなら、たとえば物の本などを通して知識が増えるのも、そこにながしかの問題点があるときにそれを指摘できるのも、人に代わって自らの意見を表明しようと思えばそれが許されるのも、広くはすべて、言葉のおかげであり、言葉によるコミュニケーションの賜だからである。そして、そういう意味でのコミュニケーション力を磨いていくことが大学での学びの大きな柱になるのであれば、そのために支障がないよう1年次からさっそく準備をはじめたい。そのための一助にしてもらおうというのが、この科目の意図するところとなる。						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 日本語の特徴1— ものの教え方 第4回 日本語の特徴2— 人の呼称 第5回 日本語の文法を考える1— 動詞と文型 第6回 日本語の文法を考える2— 動詞と活用 第7回 日本語の文法を考える3— 動詞と名詞 第8回 日本語の文法を考える4— 形容詞と感情 第9回 動詞と形容詞の問題まとめ 第10回 コミュニケーションの問題1— 敬語1 第11回 コミュニケーションの問題2— 敬語2 第12回 コミュニケーションの問題3— ことばの選択・コードスイッチング 第13回 文章表現1— お知らせのメール 第14回 文章表現2— お願いのメール 第15回 コミュニケーションの問題・文章表現のまとめ・試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10% 授業参加・積極性:50% 試験あるいはレポート:40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門A						
担当教員	吉井 健						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、あたりまえの日本語の中にある規則性を発見し、ことばへの関心を引き出す。また、コードスイッチングなどのことばの切り換えや、ことばの変化(乱れ)にも触れて、コミュニケーションの問題についても考える。できるだけ学生同士の作業やディスカッションを通じて、日本語の文法のごく基礎的な知識やコミュニケーションの問題について考えていく。						
到達目標	言葉はコミュニケーションの道具である。それはそうなのだが、その場合のコミュニケーションを「人との会話」程度に考えれば、それは言葉の恩恵の過小評価となる。なぜなら、たとえば物の本などを通して知識が増えるのも、そこにながしかの問題点があるときにそれを指摘できるのも、人に代わって自らの意見を表明しようと思えばそれが許されるのも、広くはすべて、言葉のおかげであり、言葉によるコミュニケーションの賜だからである。そして、そういう意味でのコミュニケーション力を磨いていくことが大学での学びの大きな柱になるのであれば、そのために支障がないよう1年次からさっそく準備をはじめたい。そのための一助にしてもらおうというのが、この科目の意図するところとなる。						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 図書館活用の方法 第3回 日本語の特徴1— ものの教え方 第4回 日本語の特徴2 — 人の呼称 第5回 日本語の文法を考える1— 動詞と文型 第6回 日本語の文法を考える2 — 動詞と活用 第7回 日本語の文法を考える3— 動詞と名詞 第8回 日本語の文法を考える4— 形容詞と感情 第9回 動詞と形容詞の問題まとめ 第10回 コミュニケーションの問題1 — 敬語1 第11回 コミュニケーションの問題2 — 敬語2 第12回 コミュニケーションの問題3 —ことばの選択・コードスイッチング 第13回 文章表現1 — お知らせのメール 第14回 文章表現2 — お願いのメール 第15回 コミュニケーションの問題・文章表現のまとめ・試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10% 授業参加・積極性:50% 試験あるいはレポート:40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文章によって伝達する方法や型について考える						
授業の概要	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では文芸的な文章ではなく、あらたまったメールや手紙などの表現や、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現の的確さを高める方法を分析する。また、自分の意図を文章で伝えるにはどういう配慮が必要かを考え、短い文章を書くことを数回にわたって課す。さらに、コミュニケーション上用いられる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理する方法についても考える。						
到達目標	文章によって対象を要約し、自分の考えをまとめる能力を身につけることを目指す。また、いくつかの具体的なテーマを扱いながら、その疑問を解いてゆく授業も行う。例えば「心づかい」はなぜ「づ」を用いるのかという仮名遣いと日本語の歴史の問題、「バラ」と「ボク」をどうしてカタカナで書くのかというカタカナ表記の問題、「し」「つ」はなぜローマ字で「shi」「tsu」と書くのかというローマ字表記の問題、「あす・あした・みょうにち」などの同じ意味の言葉など、具体的な問題点を中心に考えていく。そうすることで、日本語を見るさまざまな目を養うことを目標とする。						
授業計画	第1回 日本語の特徴1— 日本語の歴史と表記1 第2回 日本語の特徴2— 日本語の歴史と表記2 第3回 わかりやすい情報伝達1— レストランのメニュー 第4回 わかりやすい情報伝達2— レストランのメニュー2 第5回 わかりやすい情報伝達3— 注意書きやサービス案内 第6回 文章表現1 物事の仕組み手順— ルールの説明をする 第7回 文章表現2 物事の因果関係— 原因の説明をする 第8回 文章表現3 行為の理由・目的— 理由や目的を述べる 第9回 文章表現4 賛成意見・反対意見 第10回 あらたまった手紙の書き方 第11回 文章の要約・引用の仕方 第12回 原稿用紙の使い方 第13回 レポートを書く1 テーマを絞る 第14回 レポートを書く2 型を守って書く 第15回 レポートを書く3 型をレポートにする						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10% 授業参加・積極性:50% 試験あるいはレポート:40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文章によって伝達する方法や型について考える						
授業の概要	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では文芸的な文章ではなく、あらたまったメールや手紙などの表現や、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現的確さを高める方法を分析する。また、自分の意図を文章で伝えるにはどういう配慮が必要かを考え、短い文章を書くことを数回にわたって課す。さらに、コミュニケーション上用いられる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理する方法についても考える。						
到達目標	文章によって対象を要約し、自分の考えをまとめる能力を身につけることを目指す。また、いくつかの具体的なテーマを扱いながら、その疑問を解いてゆく授業も行う。例えば「心づかい」はなぜ「づ」を用いるのかという仮名遣いと日本語の歴史の問題、「バラ」と「ボク」をどうしてカタカナで書くのかというカタカナ表記の問題、「し」「つ」はなぜローマ字で「shi」「tsu」と書くのかというローマ字表記の問題、「あす・あした・みょうにち」などの同じ意味の言葉など、具体的な問題点を中心に考えていく。そうすることで、日本語を見るさまざまな目を養うことを目標とする。						
授業計画	第1回 日本語の特徴1— 日本語の歴史と表記1 第2回 日本語の特徴2— 日本語の歴史と表記2 第3回 わかりやすい情報伝達1— レストランのメニュー 第4回 わかりやすい情報伝達2— レストランのメニュー2 第5回 わかりやすい情報伝達3— 注意書きやサービス案内 第6回 文章表現1 物事の仕組み手順— ルールの説明をする 第7回 文章表現2 物事の因果関係— 原因の説明をする 第8回 文章表現3 行為の理由・目的— 理由や目的を述べる 第9回 文章表現4 賛成意見・反対意見 第10回 あらたまった手紙の書き方 第11回 文章の要約・引用の仕方 第12回 原稿用紙の使い方 第13回 レポートを書く1 テーマを絞る 第14回 レポートを書く2 型を守って書く 第15回 レポートを書く3 型をレポートにする						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10% 授業参加・積極性:50% 試験あるいはレポート:40% 授業中にまとめた小テストを行う場合もある。 教員の連絡先: tikeya[at]shoin.ac.jp ※[at]を@に置き換える。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	文章によって伝達する方法や型について考える						
授業の概要	文章を書くことは、大学の勉学に欠かせないことであり、かつ、社会に出ても役立つ能力である。この授業では文芸的な文章ではなく、あらたまったメールや手紙などの表現や、論説的な文章に重点を置いて、文章の構造や、表現的的確さを高める方法を分析する。また、自分の意図を文章で伝えるにはどういう配慮が必要かを考え、短い文章を書くことを数回にわたって課す。さらに、コミュニケーション上用いられる表現を分析し、さまざまな表現からパターンを整理する方法についても考える。						
到達目標	文章によって対象を要約し、自分の考えをまとめる能力を身につけることを目指す。また、いくつかの具体的なテーマを扱いつつ、その疑問を解いてゆく授業も行う。例えば「心づかい」はなぜ「づ」を用いるのかという仮名遣いと日本語の歴史の問題、「バラ」と「ボク」をどうしてカタカナで書くのかというカタカナ表記の問題、「し」「つ」はなぜローマ字で「shi」「tsu」と書くのかというローマ字表記の問題、「あす・あした・みょうにち」などの同じ意味の言葉など、具体的な問題点を中心に考えていく。そうすることで、日本語を見るさまざまな目を養うことを目標とする。						
授業計画	第1回 日本語の特徴1— 日本語の歴史と表記1 第2回 日本語の特徴2— 日本語の歴史と表記2 第3回 わかりやすい情報伝達1— レストランのメニュー 第4回 わかりやすい情報伝達2— レストランのメニュー2 第5回 わかりやすい情報伝達3— 注意書きやサービス案内 第6回 文章表現1 物事の仕組み手順— ルールの説明をする 第7回 文章表現2 物事の因果関係— 原因の説明をする 第8回 文章表現3 行為の理由・目的— 理由や目的を述べる 第9回 文章表現4 賛成意見・反対意見 第10回 あらたまった手紙の書き方 第11回 文章の要約・引用の仕方 第12回 原稿用紙の使い方 第13回 レポートを書く1 テーマを絞る 第14回 レポートを書く2 型を守って書く 第15回 レポートを書く3 型をレポートにする						
授業外における学習（準備学習の内容）	日本語あるいは日本文学に関して紹介する参考文献類をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題:10% 授業参加・積極性:50% 試験あるいはレポート:40% 授業中にまとめの小テストを行う場合もある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	青木 稔弥						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『シューカツ!』を読む						
授業の概要	『シューカツ!』はマスコミを目指す大学三年生を主人公にした石田衣良の小説。石田衣良は第129回直木賞を受賞しており、「池袋ウエストゲートパーク」シリーズ等で有名で、レギュラーのTV番組も有している。現代小説の面白さを理解し、現代の文化風俗や現代日本語への認識を深める。						
到達目標	現代小説の実態把握と現代の文化風俗や現代日本語への認識を深めること						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 現代文学 第3回 石田衣良 第4回 就活小説 第5回 群像小説 第6回 シューカツプロジェクト 第7回 エントリーシート 第8回 サークル 第9回 リーダー 第10回 リクルートスーツ 第11回 新聞社 第12回 テレビ局 第13回 ひきこもり 第14回 流行語 第15回 総まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	現代の文化風俗や現代日本語について詳しく学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価70%、レポート30%						
教科書	シューカツ! (文春文庫) 初版発行日: 2011年03月10日 ISBNコード: 9784167174187						
参考書	授業中に指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	浮世草子『けいせい風流杉盃』						
授業の概要	江戸時代の木版本のコピー（写真版）をテキストとして、300年前の世界をのぞいてみたい。時代の世相を、原文のリズムと共に楽しみながら詠むことをめざす。 今年度は宝永2年（1705）3月に刊行された浮世草子『けいせい風流杉盃』を読む。作者は未詳。各巻を京都・江戸・大阪・諸国に分けて、日本各地で当時実際に起こった男女の愛欲事件に取材した作品。その中には著名な曾根崎心中事件や米屋心中事件、さらには初代市川團十郎殺害事件なども含まれる。ゼミ恒例の歌舞伎鑑賞（顔見世興行）を行う予定。						
到達目標	変体仮名で書かれた「原本」を読むことができ、その内容を理解することができるようになるのが目標である						
授業計画	第1回 浮世草子概説 第2回 『けいせい風流杉盃』 巻1-1 発端1 第3回 『けいせい風流杉盃』 巻1-1 発端2 第4回 『けいせい風流杉盃』 巻1-2 展開1-1 第5回 『けいせい風流杉盃』 巻1-2 展開1-2 第6回 『けいせい風流杉盃』 巻1-3 展開2-1 第7回 『けいせい風流杉盃』 巻1-3 展開2-2 第8回 『けいせい風流杉盃』 巻1-4 展開3-1 第9回 『けいせい風流杉盃』 巻1-4 展開3-2 第10回 『けいせい風流杉盃』 巻1のまとめ 第11回 『けいせい風流杉盃』 に描かれた京都 第12回 近世の廓制度 第13回 近世の廓制度 第14回 近世の経済 第15回 浮世草子としての『けいせい風流杉盃』						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表による						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	池谷 知子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態に迫る。日本語教材を様々な角度から分析し、そこ日本語母語話者の話す日本語がどのように整理されているのか、またその言語表現の背後にある日本語使用と意識について、考えていく。演習はそれぞれがテーマを決めて、発表要旨をまとめ、口頭発表する形式で進める。授業の一環として、学外（例 神戸大学留学生センターや海外技術者研修センター(AOTS)など）の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	母語である「日本語」を客観的に分析する能力を身につけ、論文の読み方、資料のまとめ方などを学ぶ。						
授業計画	第1回 第一演習についての位置づけ 第2回 いろいろなシラバス 第3回 シラバスと日本語の教書1 第4回 シラバスと日本語の教科書2 第5回 機能シラバスのテキストを作る1 第6回 機能シラバスのテキストを作る2 第7回 機能シラバスのテキストを作る3 第8回 日本語文法への招待 第9回 日本語の品詞 第10回 名詞述語と形容詞述語 第11回 語から文へへ助詞 第12回 文の要素からのとりたてへ焦点化 第13回 ハとガの話1 第14回 ハとガの話2 第15回 動詞述語						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があつた問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心に行う						
評価基準と評価方法	平常点（50%）発表（20%）レポート（30%）						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円）ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	中世王朝物語の研究 その1						
授業の概要	平安時代に源氏物語を生み出した後、中世に入ってから、王朝貴族を主人公とする物語は続々と作り出されていった。それらの物語は源氏物語の影響を強く受けており、どれも似通っている。この演習では、口語訳の付いたテキストを使って王朝貴族を主人公とする作品を通読すると同時に、王朝物語の特徴についても考えてみたい。						
到達目標	王朝物語の読解力を身につける。						
授業計画	1 王朝物語の歴史 2 王朝物語の特徴 その1 3 王朝物語の特徴 その2 4 『しら露』を読む その1 5 前回購読箇所の問題点 6 『しら露』を読む その2 7 前回購読箇所の問題点 8 『しら露』を読む その3 9 前回購読箇所の問題点 10 『しら露』を読む その4 11 前回購読箇所の問題点 12 『しら露』を読む その5 13 前回購読箇所の問題点 14 まとめ 15 演習の反省						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の担当箇所についてしっかりと調べてくること。」						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	平常点50%、レポート50%						
教科書	中世王朝物語全集10『しのびね しら露』（笠間書院刊）ISBN4-305-40090-1						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田附 敏尚						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言の記述・分析のための準備						
授業の概要	現代日本語の話しことばにおけるさまざまな問題点を知るために、方言学のテキストを講読する。各自の興味・関心にしたがって、それぞれの課題を設定し発表する。						
到達目標	日本語の多様性について理解を深めるための基本的な知識を身につける。						
授業計画	第1回 方言学の論文を書くということ 第2回 方言学に関するテキストの講読① 第3回 方言学に関するテキストの講読② 第4回 方言学に関するテキストの講読③ 第5回 方言学に関するテキストの講読④ 第6回 方言学に関するテキストの講読⑤ 第7回 方言学に関するテキストの講読⑥ 第8回 方言学に関するテキストの講読⑦ 第9回 方言学に関するテキストの講読⑧ 第10回 方言学に関するテキストの講読⑨ 第11回 方言学に関するテキストの講読⑩ 第12回 各自の研究計画の検討① 第13回 各自の研究計画の検討② 第14回 予備調査の実施① 第15回 予備調査の実施②						
授業外における学習（準備学習の内容）	次回講読分の予習が必要。またそれとともに、各自が研究計画をすることになるため、身近な問題としてことばに敏感であってほしい。						
授業方法	講読および演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価70%とレポート、試験30%						
教科書	「ガイドブック方言研究」小林 隆、篠崎 晃一編（ひつじ書房、2003年） ISBN: 4-89476-183-1						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』の生成について						
授業の概要	平安時代の歌物語である『伊勢物語』の演習をおこなう。『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした歌物語である。その男の、様々な女性との恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本演習では、これを味読しつつ、『伊勢物語』がどのように作られてきたのか、生成の問題を考え、さらに、伊勢物語絵巻・絵本や伊勢物語の古注釈書に注目して、物語がどのように捉えられ、どのように享受されてきたか、また、その解釈が、伊勢物語の絵などにどのように反映されているかについても考えていきたい。						
到達目標	『伊勢物語』の特質を探究し、平安時代の物語がどのように生成してきたかを理解する。						
授業計画	第1回 物語文学の展開相と『伊勢物語』の概説講義 第2回 『伊勢物語』の成立と構成についての講義 第3回 『伊勢物語』の伝本についての講義 第4回 『伊勢物語』の注釈の歴史についての講義 第5回 『伊勢物語』第1段についての講義 第6回 『伊勢物語』第2段についての演習 第7回 『伊勢物語』第4段についての演習 第8回 『伊勢物語』第5段についての演習 第9回 『伊勢物語』第6段についての演習 第10回 『伊勢物語』第9段前半についての演習 第11回 『伊勢物語』第9段後半についての演習 第12回 『伊勢物語』第12段についての演習 第13回 『伊勢物語』第23段についての演習 第14回 『伊勢物語』第41段についての演習 第15回 『伊勢物語』の生成についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習の発表者は種々の『伊勢物語』注釈書や文献を読んで、念入りに演習の発表準備をするのはもとより、発表者以外も『伊勢物語』の本文が読解できるよう、古文読解の基礎的事項は自宅学習しておく。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容及び演習に対する取り組み（90%）、平常点（10%）						
教科書	新装版校注古典叢書『伊勢物語』片桐洋一校注（明治書院） 4-625-71301-3						
参考書	『伊勢物語の研究』片桐洋一（明治書院） 『伊勢物語全評釈』竹岡正夫（右文書院） 新編日本古典文学全集『伊勢物語』福井貞助（小学館） 新日本古典文学大系『伊勢物語』秋山 虔（岩波書店）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	吉井 健						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	近過去から近未来に至る日本語の変化						
授業の概要	<p>ことばの論理を説明することを目的とする。特に敬語のさまざまな変化について考える。この授業では、二年次までに概説的に学んだ知識を実践的に用いて、現実のことばを分析する。そうして次年度に卒業論文を書く準備をする。授業は発表討議形式を基本として行う。その中で、参加者の日本語使用への配慮がより精細になってゆくことも期待している。古典語はもちろん、現代語研究においても用例の収集と分析は欠かせない作業である。まずいくつかの問題を提示し、その問題を考えるために電子化されたものやその他の資料からことばのデータを集める方法を学ぶ。さらにそうして集まったデータをどのように整理すれば規則性が見えてくるか作業を通して考えてゆく。特に今年度はことばの変化について主題的に考える。</p>						
到達目標	<p>ことばについて冷静に事実を集めて分析すること その作業を通じて、ことばの使用についての厳密さや配慮を学ぶ。 さらに、情報の取捨選択や論理的思考という社会人基礎力を身につける。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ゼミ形式の授業について</li> <li>2) 日本語の研究分野</li> <li>3) データ収集の必要性</li> <li>4) 課題に応じたデータ収集の方法 1</li> <li>5) 課題に応じたデータ収集の方法 2</li> <li>6) 個人発表 1 (内容未定)</li> <li>7) 補足・コメント整理 1</li> <li>8) 個人発表 2 (内容未定)</li> <li>9) 補足・コメント整理 2</li> <li>10) 個人発表 3 (内容未定)</li> <li>11) 補足・コメント整理 3</li> <li>12) 個人発表 4 (内容未定)</li> <li>13) 補足・コメント整理 4</li> <li>14) 研究課題の再考</li> <li>15) まとめ</li> </ol>						
授業外における学習 (準備学習の内容)	<p>発表に際しては入念な準備を必要とする。 内容のみならず、内容をいかにわかりやすく伝えるかという点にも配慮して準備をしてほしい。 また、発表後にさらに考えることも必要。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表や質疑の内容50%・レポート30%・平常の学習態度20%						
教科書							
参考書	<p>クリティカル・シンキング (入門編) 著 E・B・ゼックミスタ、J・E・ジョンソン (北大路書房)</p>						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『チッチと子』を読む						
授業の概要	『チッチと子』は、作者石田衣良自身を半ばモデルとした小説。売れない作家という設定で、直木賞をモデルとした直木賞、父子の心の交遊、編集者や書店員との関係等、出版ジャーナリズムへの関心にも応える興味深い内容を含んでいる。現代小説の面白さを理解するとともに、現代の文化風俗や現代日本語への認識を深めていく。						
到達目標	現代小説の実態把握と現代の文化風俗や現代日本語への認識を深めること						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 出版ジャーナリズム 第3回 モデル 第4回 文学賞 第5回 直木賞 第6回 流行作家 第7回 編集者 第8回 書店員 第9回 父と子 第10回 妻の謎 第11回 出版社 第12回 テレビ局 第13回 流通 第14回 現代日本語 第15回 総まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容)	現代の文化風俗や現代日本語について学習しておくことが肝要						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価 70% レポート 30%						
教科書	石田衣良『チッチと子』新潮文庫 ISBN : 978-4-10-125057-1						
参考書	適宜指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	浮世草子『けいせい風流杉盃』						
授業の概要	前期に続き『けいせい風流杉盃』を読む。当時の男女が起こした悲しくも哀れな物語の中に、元禄時代の現実があった。従来あまり注目されることのなかった作品であるが、江戸時代に出版された原本（写真版）も参考にしながら、巻2・巻3を中心にじっくりと楽しく読んでみたい。						
到達目標	変体仮名で書かれた「原本」を読むことができ、その内容を理解することができるようになるのが目標である。						
授業計画	第1回 「好色物」概説 第2回 『けいせい風流杉盃』 巻2-1 第3回 『けいせい風流杉盃』 巻2-2 第4回 『けいせい風流杉盃』 巻2-3 第5回 『けいせい風流杉盃』 巻2-4 第6回 『けいせい風流杉盃』 巻2-5 第7回 『けいせい風流杉盃』 巻3-1 第8回 『けいせい風流杉盃』 巻3-2 第9回 『けいせい風流杉盃』 巻3-3 第10回 『けいせい風流杉盃』 巻3-4 第11回 『けいせい風流杉盃』 巻3-5 第12回 『けいせい風流杉盃』 巻2のまとめ 第13回 『けいせい風流杉盃』 巻3のまとめ 第14回 事実と虚構 第15回 浮世草子と演劇						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表による						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	池谷 知子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態を新たな観点から捉え直す作業をする。演習形式で進める。後半は4年次の卒業論文なども視野に入れ、自分自身のテーマを見つけていくための演習・訓練となる。 授業の一環として、学外（例 神戸大学留学生センターや海外技術者研修センター(AOTS)など）の日本語教育機関における留学生対象の授業に参加することがあるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	母語である「日本語」を客観的に分析する能力を身につけ、論文の読み方、資料のまとめ方などを学ぶ。						
授業計画	第1回 夏休みのレポートの発表1 第2回 夏休みのレポートの発表2 第3回 夏休みのレポートの発表3 第4回 ヴォイス～受身 第5回 ヴォイス～使役 第6回 ヴォイス～授受 第7回 ヴォイスの選択～話し手の視点 第8回 テンス～述語のル形とタ形 第9回 アスペクト1～ル形とタ形とテイル形 第10回 アスペクト2～テアル・テオク・テシマウ 第11回 イクとクル、テイクとテクル 第12回 単文から複文へ～従属節の色々 第13回 連体修飾説 第14回 終助詞 第15回 待遇表現～敬語						
授業外における学習（準備学習の内容）	発表があつた問題は、図書館などを利用して、積極的に調べるようにすること。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心に行う						
評価基準と評価方法	平常点（50%）発表（20%）レポート（30%）						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円） ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	中世王朝物語の研究 その2						
授業の概要	平安時代に源氏物語を生み出した後、中世に入ってから、王朝貴族を主人公とする物語は続々と作り出されていった。それらの物語は源氏物語の影響を強く受けており、どれも似通っている。この演習では、口語訳の付いたテキストを使って王朝貴族を主人公とする作品を通読すると同時に、王朝物語の特徴についても考えてみたい。						
到達目標	王朝物語の読解力を身につける。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 王朝物語の歴史</li> <li>2 王朝物語の特徴 その1</li> <li>3 王朝物語の特徴 その2</li> <li>4 『しら露』を読む その1</li> <li>5 前回購読箇所の問題点</li> <li>6 『しら露』を読む その2</li> <li>7 前回購読箇所の問題点</li> <li>8 『しら露』を読む その3</li> <li>9 前回購読箇所の問題点</li> <li>10 『しら露』を読む その4</li> <li>11 前回購読箇所の問題点</li> <li>12 『しら露』を読む その5</li> <li>13 前回購読箇所の問題点</li> <li>14 まとめ</li> <li>15 演習の反省</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容）	各自の担当箇所についてしっかりと調べてくること。」						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	平常点50%、レポート50%						
教科書	中世王朝物語全集10『しのびね しら露』（笠間書院刊）ISBN4-305-40090-1						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言の記述・分析						
授業の概要	前期に定めた各自の研究テーマにしたがって、調査・資料収集などを行い、各自が演習形式で発表し、討論を行う。						
到達目標	前期に引き続き、日本語の多様性について理解を深めるための基本的な知識を身につける。						
授業計画	第1回 調査結果のまとめ方 (談話分析編) 第2回 調査結果のまとめ方 (計量調査編) 第3回 個人別演習発表① 第4回 個人別演習発表② 第5回 個人別演習発表③ 第6回 個人別演習発表④ 第7回 個人別演習発表⑤ 第8回 個人別演習発表⑥ 第9回 個人別演習発表⑦ 第10回 個人別演習発表⑧ 第11回 個人別演習発表⑨ 第12回 個人別演習発表⑩ 第13回 個人別演習発表⑪ 第14回 卒業論文に向けて① 第15回 卒業論文に向けて②						
授業外における学習 (準備学習の内容)	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。						
授業方法	演習形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価70%とレポート、試験30%						
教科書	授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田中 まき						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『伊勢物語』の享受について						
授業の概要	平安時代の歌物語である『伊勢物語』の演習をおこなう。 『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした歌物語である。その男の、様々な女性との恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本演習では、これを味読しつつ、『伊勢物語』がどのように作られてきたのか、生成の問題を考え、さらに、伊勢物語絵巻・絵本や伊勢物語の古注釈書に注目して、物語がどのように捉えられ、どのように享受されてきたか、また、その解釈が、伊勢物語の絵などにどのように反映されているかについても考えていきたい。						
到達目標	『伊勢物語』の特質を探究し、平安時代の物語がどのように享受されてきたかを理解する。						
授業計画	第1回 『伊勢物語』の享受についての講義 第2回 『伊勢物語』第49段についての演習 第3回 『伊勢物語』第63段についての演習 第4回 『伊勢物語』第69段前半についての演習 第5回 『伊勢物語』第69段後半についての講義 第6回 『伊勢物語』第82段前半についての演習 第7回 『伊勢物語』第82段後半についての演習 第8回 『伊勢物語』第83段についての演習 第9回 『伊勢物語』第87段前半についての演習 第10回 『伊勢物語』第87段後半についての演習 第11回 『伊勢物語』第101段についての演習 第12回 『伊勢物語』第107段についての演習 第13回 『伊勢物語』第123段についての演習 第14回 『伊勢物語』第125段についての演習 第15回 『伊勢物語』の享受についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	演習の発表者は種々の『伊勢物語』注釈書や文献を読んで、念入りに演習の発表準備をするのはもとより、発表者以外も『伊勢物語』の本文が読解できるよう、古文読解の基礎的事項は自宅学習しておく。						
授業方法	講義と演習						
評価基準と評価方法	演習の発表内容及び演習に対する取り組み（90%）、平常点（10%）						
教科書	新装版校注古典叢書『伊勢物語』片桐洋一校注（明治書院） 4-625-71301-3						
参考書	『伊勢物語古注釈書コレクション』片桐洋一（和泉書院） 『伊勢物語絵巻・絵本大成』（角川学芸出版）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	吉井 健						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	近過去から近未来にわたる日本語の変化						
授業の概要	<p>ことばの論理を説明することを目的とする。特に敬語をめぐる問題を考える。この授業では、二年次までに概説的に学んだ知識を実践的に用いて、現実のことばを分析する。そうして次年度に卒業論文を書く準備をする。授業は発表討議形式を基本として行う。その中で、参加者の日本語使用への配慮がより精細になってゆくことも期待している。古典語はもちろん、現代語研究においても用例の収集と分析は欠かせない作業である。まずいくつかの問題を提示し、その問題を考えるために電子化されたものやその他の資料からことばのデータを集める方法を学ぶ。さらにそうして集まったデータをどのように整理すれば規則性が見えてくるか作業を通して考えてゆく。特に今年度はことばの変化について主題的に考える。</p>						
到達目標	<p>ことばについて冷静に事実を集め、推理し、なぜそのような使われ方をするのか、なぜそのような変化を起こすのかを明らかにする。その作業を通じて、ことばの使用についての厳密さや配慮を学ぶ。さらに、情報の取捨選択や論理的思考という社会人基礎力を身につける。</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 夏期休暇中の課題について</li> <li>2) 発表テーマの紹介</li> <li>3) 個人発表1 (内容未定)</li> <li>4) 補足・コメント整理1</li> <li>5) 個人発表2 (内容未定)</li> <li>6) 補足・コメント整理2</li> <li>7) 個人発表3 (内容未定)</li> <li>8) 補足・コメント整理3</li> <li>9) 個人発表4 (内容未定)</li> <li>10) 補足・コメント整理4</li> <li>11) 個人発表5 (内容未定)</li> <li>12) 補足・コメント整理5</li> <li>13) 個人発表6 (内容未定)</li> <li>14) 補足・コメント整理6</li> <li>15) まとめ</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容)	<p>発表に際しては入念な準備を必要とする。内容のみならず、内容をいかにわかりやすく伝えるかという点にも配慮して準備をしてほしい。また、発表後にさらに考えることも必要。</p>						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	発表や質疑の内容50%・レポート30%・平常の学習態度20%						
教科書							
参考書	<p>クリティカル・シンキング(入門編) 著 E・B・ゼックミスタ、J・E・ジョンソン (北大路書房)</p>						

科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本書道史						
担当教員	室之園 裕美						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	今日、当たり前のように使っている漢字や仮名であるが、それらは我々日本人が世界に誇るべき文化遺産である。漢字や仮名について知ることは、日本の文化を知ることであり、その起源から知ることで我々の祖先の想像力の豊かさや素晴らしさ、日本人としての誇りを感じられるようになることがテーマである。						
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の時代背景・文化・文学をふまえた上で、その時代の書の特徴を解説する。その上で実際に書いてみることで、書の変遷を体得する。文字の起源から始まり、大和時代・飛鳥時代・奈良時代・平安時代前期・平安時代中期・平安時代後期の書について考察した後、かな文字の変遷についても考え、王朝仮名について考え、さらに鎌倉時代・室町時代の書についても言及する。						
到達目標	日本の書の歴史といってもただ単に書が時代とともにあったのではなく、書はそれぞれの時代を反映して変化し続けているのである。そこでこの授業では、各時代の背景と書の特徴を結びつけて、日本の書の歴史についての知識を習得する。						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業内容の説明や持ち物や注意事項の伝達） 第2回：日本書道史概要解説、年表チェック。 第3回：聖徳太子以前（漢字の伝来 文献記録と実物文字資料）。 第4回：これより聖徳太子以後 大和時代（模倣期）。 第5回：奈良時代（前項の続き、天平文化）。 第6回：平安時代初期（過渡期 三筆）。 第7回：平安時代中期～後期（完成期 三蹟 古筆名品）。 第8回：平安時代中期～後期（前回の続き 古今集との関係）。 第9回：仮名の変遷についてのまとめ。 第10回：平安時代末～鎌倉時代（継承期 忠道、俊成、西行、後鳥羽天皇、定家、平家納経）。 第11回：室町時代（衰微期 禅林墨跡）。 第12回：安土桃山時代～江戸初期（復興期 寛永の三筆）。 第13回：江戸時代～明治初期（普及期 御家流 儒学者、文人の書）。 第14回：明治時代以後（楊守敬来日、北碑の書 難波津会、古筆の復興 新時代の書家達）。 第15回：定期試験。						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んでくること。 授業後：授業で学んだことをもう一度読み直す際に、併せて図書館や手持ちの日本史や書作品について書いている本を見てみるとより理解が深まり、レポート作成のときに役立ちます。						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	平常点20%、提出課題30%、定期テスト50%による総合評価。						
教科書	「日本書道史年表」 名児耶明編 二玄社刊 定価¥1470 ISBN4-544-01242-2						
参考書	必要に応じプリント配布						



科目区分	日本語日本文学学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶA／日本文化特殊講義A						
担当教員	田中 まき						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受						
授業の概要	<p>平安時代の物語や歌集は、その時代だけでなく、連綿と読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。それは文学の面だけではなく、文化全般に享受され、美術・工芸作品としても様々な多くの作品を生み出した。美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人集』や『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や、国宝『源氏物語絵巻』や『伊勢物語絵巻』などの絵巻から、王朝文化の華やかさや技術の高さを窺うことができる。</p> <p>本授業では、このような平安文学の影響のもとに製作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。</p> <p>それらの美術・工芸品について、理解しやすいように、複製を示したり、パソコンやDVDの画像をプロジェクターで示したりしながら解説する。</p>						
到達目標	美術・工芸品における平安文学の享受の様相を具体的に理解する。						
授業計画	第1回 平安文学とその影響を受けた美術・工芸品についての概説 第2回 屏風歌と屏風絵 第3回 『古今和歌集』の写本（高野切・元永本・伝公任筆本・唐紙卷子本など） 第4回 『西本願寺本三十六人集』 第5回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』 第6回 古筆切と手鑑 第7回 冷泉家の至宝 第8回 国宝『源氏物語絵巻』 第9回 『伊勢物語絵巻』（白描梵字経下絵・久保惣本など） 第10回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行 第11回 絵入り版本の盛行 第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』 第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受（国宝『燕子花図屏風』など） 第14回 古典文学をモチーフとした調度や衣装 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	古典文学と関わりのある美術・工芸品に興味を持ち、それらが扱われた本やテレビ番組を見たり、展覧会に出かけたりしてほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（90%）と平常点（10%）						
教科書	『カラー版 王朝文学選』岡野通夫・小山利彦監・奈古忠國編（おうふう）978-4-273-02212-9 プリントを併用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶB／日本文化特殊講義B						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	物語の中世						
授業の概要	御伽草子は、主として室町時代に広く楽しまれた物語類をいう。今回は、まず、誰もがよく知っている『浦島太郎』を読み、御伽草子の文体に親しみたい。次いで、実在の人物をモデルにしてできた『小町草子』を通して、中世の物語がどのように形成されていったかを考究する。						
到達目標	平安時代の高度に文学的な物語から、今日のおとぎ話に至る、我が国における「物語」という文化に対する理解を深める。						
授業計画	1) 物語概説 2) 『御伽草子』について－その1 3) 『御伽草子』について－その2 4) 『浦島太郎』を読む－その1 5) 同上－その2 6) 同上－その3 7) 御伽草子の文体 8) 『小町草子』を読む－その1 9) 同上－その2 10) 同上－その3 11) 同上－その4 12) 同上－その5 13) 御伽草子の生成－その1 14) 同上－その2 15) まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講読箇所をあらかじめ音読しておくこと						
授業方法	講義を中心とし、適宜、講読を交える						
評価基準と評価方法	レポート（1回）と試験						
教科書	プリントによる						
参考書	教室で指示する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶC／日本文化特殊講義C						
担当教員	田中 まき						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学における旅						
授業の概要	現代と違って、昔の旅は概して種々の困難や特別な事情のある旅であった。古代や中世の人々はどのような旅をしたのか。旅が現在のように娯楽になったのはいつのことなのか。本授業では、古典文学における旅の様相を読み解くことによって、古代から近世に至る旅について考察したい。						
到達目標	古典文学に描かれた古代から近世における旅の様相を理解する。						
授業計画	第1回 神話におけるヤマトタケルの旅 第2回 万葉人の旅 第3回 菅原道真の大宰府への左遷 第4回 『伊勢物語』における「東下り」 第5回 『土佐日記』の船旅 第6回 『更級日記』の旅（任国からの帰郷） 第7回 王朝人の寺社参詣の旅 第8回 西行と歌枕 第9回 平家の都落ちと『平家物語』 第10回 『十六夜日記』の旅と中世の紀行文 第11回 能における旅 第12回 芭蕉の『奥の細道』の旅 第13回 浄瑠璃・歌舞伎における道行文 第14回 伊勢参りの流行と『東海道中膝栗毛』 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業では古典文学における旅の様相を読み取って行くので、プリントの文章が読解できるよう復習してほしい。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	試験（90%）と平常点（10%）						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶD／日本文化特殊講義D						
担当教員	秋本 鈴史						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本芸能史入門・歌舞伎						
授業の概要	江戸時代を代表する芸能である歌舞伎について考える。異常な行動をすることを戦国末期には「かぶく（傾く）」といい、熱病のように流行した。社会の混乱の中でこうした異常な行動を取る「かぶきもの」が増えていったが、やがてその精神だけが芸能として残った。それが「かぶき」である。現代にも続くこの芸能について、入門者用にその概略を考えてみたい。						
到達目標	日本文化の代表の一つである歌舞伎の基礎と概要を学ぶ						
授業計画	第1回 歌舞伎入門 第2回 歌舞伎の歴史1 成立から元禄歌舞伎まで 第3回 歌舞伎の歴史2 江戸歌舞伎の流行から明治まで 第4回 歌舞伎役者1 歴史と役柄 第5回 歌舞伎役者2 身分と生活 第6回 歌舞伎の観客 第7回 歌舞伎の劇場 第8回 歌舞伎のドラマ1 戯曲 第9回 歌舞伎のドラマ2 種類 第10回 歌舞伎の演出1 音楽と舞踊 第11回 歌舞伎の演出2 大道具・小道具 第12回 歌舞伎の作品1 歌舞伎18番 第13回 歌舞伎の作品2 義太夫狂言 第14回 歌舞伎の作品3 舞踊劇 第15回 まとめと筆記試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	講義形式で行うが、授業内で指示する参考図書を読んだり、図書館のAVセンターにあるDVDで舞台映像を見て学ぶ必要がある						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	小テスト50% 期末テスト50%						
教科書	プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	高校までに学んできた古典文学作品についての知識を体系的に整理するとともに、それぞれの作品が生み出された歴史的背景と関連づけて理解させ、日本文化の一環として文学作品を捉える視点を修得させる。						
授業の概要	多様な古典の世界を学びつつ、高校までの勉強とはひと味違った形で、日本文化や日本文学の世界を紹介してゆく。						
到達目標	個別の作品を文化史の流れの中に位置づけて捉えることができるようにする。						
授業計画	1 日本文学のジャンルと歴史区分 2 口承と漢字 3 和習漢文 4 日本語のエクリチュール 5 天皇制と宮廷サロン 6 伝承話型 7 神々と仏教 8 年中行事 9 制度と政治 10 通過儀礼 11 恋愛と結婚 12 医療と呪術 13 命と心と身体 14 本の歴史 15 総括と試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前の予習はとくに必要なし。 授業後、授業内容を反芻し、要点を自力で整理しておくこと。						
授業方法	講読を交えての講義						
評価基準と評価方法	出席点50点と、レポートおよび期末試験50点						
教科書	プリントによる。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化入門						
担当教員	片岡 利博						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	高校までに学んできた古典文学作品についての知識を体系的に整理するとともに、それぞれの作品が生み出された歴史的背景と関連づけて理解させ、日本文化の一環として文学作品を捉える視点を修得させる。						
授業の概要	多様な古典の世界を学びつつ、高校までの勉強とはひと味違った形で、日本文化や日本文学の世界を紹介してゆく。						
到達目標	個別の作品を文化史の流れの中に位置づけて捉えることができるようにする。						
授業計画	1 日本文学のジャンルと歴史区分 2 口承と漢字 3 和習漢文 4 日本語のエクリチュール 5 天皇制と宮廷サロン 6 伝承話型 7 神々と仏教 8 年中行事 9 制度と政治 10 通過儀礼 11 恋愛と結婚 12 医療と呪術 13 命と心と身体 14 本の歴史 15 総括と試験						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前の予習はとくに必要なし。 授業後、授業内容を反芻し、要点を自力で整理しておくこと。						
授業方法	講読を交えての講義						
評価基準と評価方法	出席点50点と、レポートおよび期末試験50点						
教科書	プリントによる。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学史A						
担当教員	片岡 利博						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	上代から江戸時代末までの日本文学の歴史を学ぶ。						
授業の概要	上代から江戸時代末までの日本文学の歴史を学ぶとともに、著名な作品については若干の講読も行う。						
到達目標	文学史の知識を身につける。						
授業計画	1 日本文学の定義 2 日本文学史の歴史区分 3 上代の文学 その1 4 上代の文学 その2 5 中古の文学 その1 6 中古の文学 その2 7 中古の文学 その3 8 中世の文学 その1 9 中世の文学 その2 10 中世の文学 その3 11 近世の文学 その1 12 近世の文学 その2 13 近世の文学 その3 14 まとめ 15 試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習は必要ないが、授業内容をしっかり復習すること。						
授業方法	講読を交えつつ、講義中心に行う。						
評価基準と評価方法	平常点（50%）と期末試験（50%）						
教科書	『日本古典読本』（筑摩書房）ISBN4-480-91708-X						
参考書	教室で指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解することを目指す。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の散文 導入 第4回 明治期の散文 応用 第5回 明治期の韻文 第6回 大正期の散文 導入 第7回 大正期の散文 応用 第8回 大正期の韻文 第9回 昭和期の散文 導入 第10回 昭和期の散文 応用 第11回 昭和期の韻文 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことが肝要						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
教科書	『近代文学年表』双文社出版 ISBN:4-88164-031-3						
参考書	授業中に指示						



科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	文法・敬語の基礎知識／国語学講読D						
担当教員	田附 敏尚						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語文法・敬語についての基礎的研究						
授業の概要	現代日本語の課題のひとつに、多言語・多文化共生社会の実現がある。同じ言語を使用する人々はもちろん、異言語・異文化の人々が相互に理解し、尊重し合って生きていくためには、ことばや文化、生活習慣や価値観の多様性を認め合うことが不可欠である。この講義では、日本語の文法、敬語のしくみとその効果的な運用について考えることで、気持ちや考えを伝え合うことばのはたらき、伝え合うことによって人間関係を築く話しことばのはたらきについても考えを深めていきたい。						
到達目標	1. 日本語の敬語のしくみと運用について規範に則った適切な運用ができるようになる。 2. 日本語文法の基礎を学び、その構造を客観的に捉えられるようになる。						
授業計画	第1回 話しことばと敬語 第2回 敬語と人間関係 第3回 敬語の種類とはたらき① 尊敬語 第4回 敬語の種類とはたらき② 謙譲語 第5回 敬語の特別な形 丁寧語、美化語 第6回 第三者に対する敬語 第7回 間違いやすい敬語 二重敬語 第8回 慣用句、ことわざ、四字熟語 第9回 日本語の文法① 主語について 第10回 日本語の動詞 第11回 日本語の形容詞 第12回 日本語の文法② テンス、アスペクト、モダリティについて 第13回 日本語の助詞① 格助詞、終助詞を中心に 第14回 日本語の助詞② 接続助詞を中心に 第15回 総論と期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後に簡単なレポートを課すことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。						
授業方法	講義形式						
評価基準と評価方法	出席40%、レポート20%、期末試験40%						
教科書	プリントを適宜配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの基礎						
担当教員	吉岡 美賀子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	広義のプレゼンテーションにおける技術の理解と習得						
授業の概要	発声練習をはじめ、発音、アクセント、滑舌など、プレゼンテーションの基礎に触れる。その後、場面を想定してプレゼンテーションの実践に取り組む。なおその際の実稿は、自分で作るようになる。相手にいかにわかりやすく伝えることができるか、その方法を具体的に学ぶ。						
到達目標	人前で話すために必要な技術、心構えを理解し、様々な場面を想定して実践する。						
授業計画	第1回 発声練習 第2回 滑舌練習 第3回 アクセント 第4回 一番短いプレゼンテーション—CM 第5回 CM読みの実践1 第6回 CM読みの実践2（声の表情を変えて） 第7回 フリートーク 第8回 ビブリオバトルとは 第9回 ビブリオバトルの実践 第10回 ビブリオバトルの実践（仕上げ） 第11回 第一印象の作り方 第12回 朗読について 第13回 原稿の作り方 第14回 朗読の実践 第15回 読み聞かせ  （受講者数によって内容が前後することがあります。）						
授業外における学習（準備学習の内容）	◎ビブリオバトル—5分間で本を紹介する。紹介したい本を選んで、紹介ポイントを探しておく。 ◎朗読—題材は自由。時間は2分程度。コピー、手書き等で原稿を作り、読むときの工夫を書きこんでから、一部コピーしたものを発表時に提出すること。						
授業方法	演習						
評価基準と評価方法	実技40%、ミニレポート（授業の中で提出）60%。欠席は減点、遅刻は3回で欠席1回と同等扱い。3分の2以上の出席と課題実技（ビブリオバトルと朗読）がなければ、単位は認めない。						
教科書	なし						
参考書	なし						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	マスメディア論A						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	使用されている日本語からメディア・リテラシーを考える						
授業の概要	現代社会は、新聞・雑誌・テレビ、インターネットなど、さまざまなメディアが複層的に取り入れられています。その中で、私たちはどのようにメディアとコミュニケーションをとればいいのでしょうか。それぞれの背景や特長をふまえながら、メディア・リテラシーについて考えます。						
到達目標	日常接するマスメディアの中心的な存在である新聞、放送などにおいて使用されている日本語の語彙や文体を、分野ごとに時代を追って分析することにより、日本語の変化とその背景を理解します。また、パソコンのアプリケーション（スクラエディター、Excel、茶釜）を使用しての日本語の分析方法を習得します。						
授業計画	第1回 マスメディアとは・分析処理の概要 第2回 分析処理の方法（1）－文長と字種－ 第3回 分析処理の方法（2）－品詞と語種－ 第4回 新聞記事の分析（1）－現在の新聞－ 第5回 新聞記事の分析（2）－瓦版～明治・大正－ 第6回 新聞記事の分析（3）－昭和・戦前・戦後－ 第7回 グループワークによる新聞記事の分析 第8回 放送の「話しことば」の分析方法 第9回 放送で使われる日本語の分析（1） 第10回 放送で使われる日本語の分析（2） 第11回 放送で使われる日本語の分析（3） 第12回 「流行歌」の日本語の分析（1） 第13回 「流行歌」の日本語の分析（2） 第14回 「流行歌」の日本語の分析（3） 第15回 提出レポート（個人）の作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：パソコンの基礎的な操作とExcelの基本操作を確認しておいてください。 授業後学習：授業で行ったパソコンでの分析方法と分析結果を確認しておいてください。						
授業方法	講義とパソコンを使用した実習。分析作業（パソコン操作）は基本的にグループで行います。						
評価基準と評価方法	平常点 30%、 レポート（グループ20% × 2回）40%、レポート（個人1回）30%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	マスメディア論B						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	マスメディアの活用と課題、そしてメディア・リテラシーを考える						
授業の概要	新聞・放送・出版・電子メディアを俯瞰し、表現の自由とメディア・リテラシーについて考えます。氾濫する情報の中で、私たちは情報メディアを批判的に読み解いて、必要な情報を引き出し、真偽を見抜き、活用する能力を身につけなくてはなりません。そのためにはメディアの現場がどのような構造と特質を持っているかを知る必要があります。またそれぞれのメディアの課題を探りつつ、メディアの有効な活用とそれらの情報をもとに対面コミュニケーションをどう図るのかを考えます。						
到達目標	新聞、放送など、従来型のマスメディアがインターネットに進出することにより、そこで使用される日本語がどのように変化してきているかを調査分析し、インターネットの世界がことばの変化に与える影響、延いては社会にもたらす変化について考えます。日本語の分析には、パソコンのアプリケーション（サクラエディター、Excel、茶筌）を使用します。						
授業計画	<p>第1回 ガイダンス・インターネットに進出した既存のマスメディア</p> <p>第2回 紙メディアの新聞記事とネット上の新聞記事（1）</p> <p>第3回 紙メディアの新聞記事とネット上の新聞記事（2）</p> <p>第4回 紙メディアの新聞記事とネット上の新聞記事（3）</p> <p>第5回 紙メディアの新聞記事とネット上の新聞記事（4）</p> <p>第6回 放送とインターネット(*)</p> <p>第7回 放送局のHPとテレビ・ラジオ放送（1）</p> <p>第8回 放送局のHPとテレビ・ラジオ放送（2）</p> <p>第9回 放送局のHPとテレビ・ラジオ放送（3）</p> <p>第10回 グループレポートの作成</p> <p>第11回 インターネット上の日本語－ニュースサービス</p> <p>第12回 インターネット上の日本語－広告</p> <p>第13回 インターネット上の日本語－ネット用語</p> <p>第14回 インターネット上の日本語－Wikipedia</p> <p>第15回 提出レポート（個人）の作成</p> <p style="text-align: right;">(*) ゲストスピーカーによる講演を予定</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>授業前学習：パソコンを使用して、インターネット上に公開されている信頼できる各種のホームページを、新聞、放送局のものなどを中心に閲覧しておいてください。</p> <p>授業後学習：授業で行ったパソコンを使用した分析方法と分析結果を整理・確認しておいてください。</p>						
授業方法	講義とパソコンを使用した実習。分析作業（パソコン操作）は基本的にグループで行います。						
評価基準と評価方法	平常点 30%、 レポート（グループ）30%、レポート（個人1回）40%						
教科書	適宜プリントを配布します。						
参考書							